

明治三十七七八年海戦史

第一部 戦紀

第二篇 旅順口及ヒ仁川ノ敵艦隊ニ對スル作戦

第一章 聯合艦隊ノ組織及ヒ出發

第一節 常備艦隊ノ佐世保軍港集合及ヒ聯合艦隊ノ組織

帝國海軍ハ露國ノ滿洲ニ於ル第二撤兵期ニ際シ、明治三十六年三月下旬ヨリ四月上旬ニ至リ、殆ト全勢力ヲ擧ケテ、之ヲ攻防二隊ニ分チ、朝鮮海峽方面ニ於テ大演習ヲ爲シ、同十日神戸港沖ニ於テ觀艦式ヲ舉行セラレタリ、夫ヨリ常備艦隊司令長官海軍中將日高壯之丞ハ同司令官海軍少將伊集院五郎ヲシテ、支隊タル巡洋艦千歳、吉野ノ二隻ヲ率非テ、本邦沿岸ヲ巡航セシメ、自ラ本隊タル戰艦敷島、裝甲巡洋艦出雲、常磐(戰艦八島モ常備艦隊中ニアリシカ故アリテ一時分離セリ)ヲ率非、先ツ鹿兒島灣ヨリ佐世保軍港ニ到リ、五月上旬ヲ以テ清國南部ヲ巡航セシメラル、ノ豫定ナリシカ、會滿洲事件發生シ、南航停止ノコト、ナリタルヲ

以テ、同司令長官ハ巡航區域ヲ變更シ、五月十日佐世保軍港ヲ發シテ韓國南岸ニ航シ、更ニ轉シテ橫須賀、室蘭、青森等ノ諸港ヲ經テ、八月六日小樽港ニ投錨シ、尙引續キ北海方面ニアリテ、教育訓練ニ從事セントシ、支隊ハ四月以來本洲ヲ一周シテ同日吳軍港ニ著シ、更ニ韓國南岸ヨリ北清方面ヲ巡航セントスルノ豫定タリ、然ルニ是ヨリ先キ日露ノ交渉漸ク難境ニ陥リタルヲ以テ、七月一日戰艦朝日、裝甲巡洋艦八雲、警手、驅逐艦漣、朧、霞、薄雲、陽炎、朝潮、白雲、常備艦隊ニ編入セラレ、且海軍大臣海軍中將男爵山本權兵衛ハ、八月一日其ノ他ノ優勢ナル軍艦、驅逐艦ヲモ修理完成ニ隨ヒ豫備艦ノ儘佐世保軍港ニ回航セシムヘキノ訓令ヲ各鎮守府司令長官ニ與ヘ、是ト同時ニ日高常備艦隊司令長官ニモ、成ルヘク佐世保方面ニ在リテ訓練ニ從事スヘキノ内命ヲ與ヘタリ、是ニ於テ日高司令長官ハ更ニ行動ヲ變更シ、同十一日日本隊ヲ率非テ小樽港ヲ發シ、函館、舞鶴、唐津、伊萬里ニ寄泊シテ、同廿八日佐世保軍港ニ入り、支隊ハ同十二日吳軍港ヲ發シ、一旦佐世保軍港ニ寄り、夫ヨリ韓國南岸ヲ巡リテ、九月四日再佐世保軍港ニ到著シ、又戰艦三笠、初瀬、裝甲巡洋艦淺間

吾妻、驅逐艦雷、電、曙、春雨、村雨、速鳥ハ九月一日常備艦隊ニ編入セララル、是ニ至リテ六戰艦、六裝甲巡洋艦悉ク就役シ、優勢ナル艦隊組織セラレ、次テ又同七日ニハ巡洋艦須磨、明石、同十一日ニハ巡洋艦高砂、笠置、十月一日ニハ驅逐艦叢雲、朝霧、同十五日ニハ巡洋艦浪速、十一月十一日ニハ通報艦千早、龍田、驅逐艦夕霧、同三十日ニハ驅逐艦不知火モ亦同隊ニ編入セラレ、其ノ他ノ諸艦モ稍優勢ナルモノハ、或ハ警備艦トシ、或ハ練習艦トシテ、概ネ就役シ居リ、驅逐艦モ豫備艦タルモノハ僅ニ東雲一隻ノミトナレリ、是ヨリ先キ海軍少將中溝德太郎ハ、七月七日ヲ以テ新ニ常備艦隊司令官ニ補セラレ、又伊集院同司令官ハ九月五日海軍中將ニ陞進シ、軍令部次長ニ轉シタルヲ以テ、海軍少將梨羽時起ハ之ニ代リテ同司令官トナリシカ、十月十九日ニ至リ、海軍中將東郷平八郎、日高中將ニ代リテ、常備艦隊司令長官ニ補セラレ、同二十七日中溝司令官轉任シテ、海軍中將上村彥之丞、同少將出羽重遠共ニ同司令官ニ補セラレタリ、即チ司令長官ハ東郷中將、司令官ハ上村中將、出羽少將、梨羽少將ニシテ、其ノ前後艦隊ハ或ハ韓國鎮海灣方面ニ至リテ、

警戒航行、港灣占領警戒錨泊等ノ演習及ヒ恆例檢閲等ヲ施行シ、或ハ佐世保港外ニ出テ、常裝藥ヲ用ヒテ高速力艦砲射撃ヲ爲シ、競争水雷發射ヲ試ミ、無線電信ノ通信ヲ研究シ、焚火試驗ヲ行ヒ、高速力艦隊運動ヲ練リ、終ニ英炭ヲ用ヒ更ニ高速力ヲ出シテ遠距離ノ射撃ヲ爲シ、又就役艦艇ノ増加ニ隨ヒテ、屢艦隊區分ヲ變更スル等、全カヲ諸種ノ訓練ニ用ヒテ一日ヲモ忽ニセス、十二月ニ入りテヨリ更ニ韓國南岸ニ至ラントセシカ、當時事務局頗ル切迫シ、之ヲ中止スヘキノ命令アリテ果サス、是ニ於テ東郷常備艦隊司令長官ハ、愈訓練ヲ勵行シ、一面ニ於テハ、十二月中旬ヨリ出師準備トシテ、不必要ナル物品ノ陸揚及ヒ損害應急ノ諸準備等ヲ從來實驗ノ結果ニ鑑ミテ著々施行シ、同廿三日ニハ英炭ヲ増載シテ六戰艦ハ各一千噸、六裝甲巡洋艦ハ各八百噸、其ノ他ノ主ナル巡洋艦ハ、六百噸乃至二百五十噸ト爲サシメ、尙以上ノ各艦ニハ需品及ヒ二ヶ月分ノ糧食等ヲモ準備セシメ、以テ時局ノ推移ヲ待チシニ、同廿七日海軍省副官兼海軍大臣秘書官海軍中佐野間口兼雄内命ヲ帶ヒテ東京ヨリ到リ、日露交渉談判ノ經過、時局ノ切迫ヲ通知セシカ、同廿八日遂

ニ常備艦隊ヲ解キ、新ニ第一、第二、第三艦隊ヲ編制シ、第一、第二艦隊ヲ以テ聯合艦隊ヲ組織セシメラレ、海軍中將東郷平八郎ハ第一艦隊司令長官ニ、海軍少將出羽重遠及ヒ同梨羽時起ハ同司令官ニ、海軍中將上村彦之丞ハ第二艦隊司令長官ニ、海軍少將瓜生外吉及ヒ同三須宗太郎ハ同司令官ニ補セラレ、東郷第一艦隊司令長官ハ聯合艦隊司令長官トシテ、其ノ指揮ヲ司ル、即チ第一、第二艦隊ノ編制左ノ如シ、

第一艦隊

- | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|
| 軍艦三笠 | 軍艦初瀬 | 軍艦敷島 | 軍艦朝日 | 軍艦富士 |
| 軍艦八島 | 軍艦笠置 | 軍艦千歲 | 軍艦高砂 | 軍艦吉野 |
| 軍艦官古 | | | | |
| 驅逐艦曉 | 驅逐艦霞 | 驅逐艦朝潮 | 驅逐艦白雲 | 驅逐艦雷 |
| 驅逐艦電 | 驅逐艦曙 | 驅逐艦龍 | 驅逐艦薄雲 | 驅逐艦東雲 |
| 驅逐艦漣 | | | | |

第二艦隊

軍艦淺間 軍艦常磐 軍艦磐手 軍艦出雲 軍艦八雲
 軍艦吾妻 軍艦高千穂 軍艦浪速 軍艦須磨 軍艦明石
 軍艦千早

驅逐艦春雨 驅逐艦村雨 驅逐艦速鳥 驅逐艦朝霧 驅逐艦叢雲
 驅逐艦夕霧 驅逐艦不知火 驅逐艦陽炎

既ニシテ三十八年一月四日ニ至リ、通報艦龍田ハ、宮古宮古ハ第三艦隊ニ編入セラルルニ代リテ第一艦隊ニ入り、同六日第十四艇隊(隼、鵠、真鶴、千鳥)ハ第一艦隊ニ、第九艇隊(雁、蒼鷹、鶴、燕)ハ第二艦隊ニ編入セラレ、同十一日ニ至リ、雇入汽船三十八隻中十三隻ハ、特設船舶トシテ聯合艦隊ニ附屬スルコト左ノ如シ、

假裝水雷母艦 春日丸 日光丸
 假裝巡洋艦 臺南丸 臺中丸
 工作船 江都丸 三池丸
 病院船 神戸丸

附屬運送船 金州丸 彦山丸 有明丸 山口丸 太郎丸
 福岡丸

右ノ外報國丸、仁川丸、天津丸、武州丸、武陽丸ハ、艦隊用特別運送船ト爲リ、以テ豫メ旅順口閉塞ノ用ニ供ヘラル、尋テ同十八日ニ至リ、香港丸、日本丸ハ假裝巡洋艦トシテ、聯合艦隊ニ附屬セリ、是ニ於テ東郷司令長官ハ、春日丸、三池丸、神戸丸、山口丸、福岡丸、金州丸、仁川丸、武州丸、武陽丸、天津丸、報國丸、臺中丸、臺南丸ヲ第一特務隊ト爲シ、日光丸、江都丸、太郎丸、彦山丸、香港丸、日本丸ヲ第二特務隊ト爲ス、又同二十四日水雷母艦豐橋ハ、第三艦隊ニ移サレ、同二十七日砲艦大島、同赤城及ヒ第一艇隊第六十七號、第六十八號、第六十九號、第七十號ハ、第一艦隊ニ、巡洋艦新高及ヒ第二艇隊第六十二號、第六十三號、第六十四號、第六十五號ハ、第二艦隊ニ編入セラレタルヲ以テ、東郷司令長官ハ大島、赤城ヲ第一特務隊ニ入ル、二月四日ニ至リ、更ニ熊野丸ヲ假裝水雷母艦トシ、亞米利加丸ヲ假裝巡洋艦トシテ、聯合艦隊ニ附屬セラレ、同五日須磨ハ第三艦隊ニ移サレタリ、其ノ組織左表ノ如シ、

艦隊司令長官ハ、愈々開戦準備ノ完成ニ努メ、一月九日訓令ヲ下シテ、各戦隊ノ各艦ハ、二晝夜分(十時間)ノ和炭ニ對スル餘積ヲ存シテ、英炭ヲ滿載シ、驅逐艦以上ニハ許ス限リ被服、糧食、需品ヲ充實セシメ、且勉メテ眞水ヲ水罐ニ充實シ置カシメ、同十日ニハ全艦艇ニ令シ、水線上船體外部全面、竝ニ艦載水雷艇、汽艇、端艇ヲ黒一、白三ノ比量配合ナル濃鼠色ニ塗替フヘキヲ令ス、此ノ時ニ當リ、通信連絡ノ爲メ、佐世保及ヒ韓國八口浦間ニ海底電線敷設ノ舉アリ、海軍少佐布目滿造ハ、遞信省所屬電線敷設船沖繩丸ニ便乘シテ、佐世保ニ回航シ、海軍大臣ヨリハ、軍艦明石ヲシテ之ヲ護衛セシムヘキノ命アリタルヲ以テ、東郷司令長官ハ、十一日同艦ニ令シテ沖繩丸ト共ニ八口浦ニ向ヒ、佐世保ヲ出發セシメ、尙之ニ訓令スルニ、終始外國艦船ノ行動ニ注意シ、我カ作業ヲ窺知セラレサル爲メ、適當ノ偵察及ヒ警戒ヲ行フヘキ旨ヲ以テシ、(明石ハ十ヲ了ヘテ、沖繩丸ト共ニ歸著セリ)同十六日ニハ各艦艇ニ向ヒ、其ノ格納ニ差支ナキ限リ伊集院信管ヲ適宜各種ノ彈丸ニ附著スルコト、出師準備用治療品ヲ搭載スルコト、防寒用トシテ豫メ木炭ヲ搭載貯藏スルコト、驅逐艦、水雷艇ハ二晝夜分(一時間)

海ノ煉炭ニ對スル餘積ヲ存シテ英炭ヲ搭載貯藏スルコト等ヲ令シタルカ、翌十七日軍令部參謀海軍中佐財部彪ハ、海軍大臣及ヒ軍令部長ノ内意ヲ齎シテ東京ヨリ到リ、日露交渉ノ經過ヲ告ケ、且作戰方針ヲ示シタルヲ以テ、東郷司令長官ハ愈々事局ノ切迫セルヲ知り、同廿日ヲ以テ、更ニ各艦艇ハ僅ニ一晝夜分(十時間)ノ和炭若クハ煉炭ヲ搭載シ得ル餘積ヲ存シテ英炭ヲ滿載貯藏シ、航海用需品ヲ充實シ、水管及ヒ汽管ノ防寒被覆ヲ速ニ完成セシメ、且舵機ヲ検査シ、十二時間以内ニ復舊ノ見込ナキ機關ノ手入ヲ禁シ、又各艦艇ノ乗員ニハ佐世保市以外ニ出ツルヲ禁シ、次テ逐次防寒服ヲ各艦艇ニ交附スル等、準備著々整頓セシカ、同二十四日侍從武官海軍少將井上良智聖旨ヲ奉シテ來艦シ、艦隊ノ現況ヲ視察シタルヲ以テ、士氣益振フ、既ニシテ二月三日ニ至ルヤ、在芝罘海軍中佐森義太郎ヨリ、露國戰艦六隻、巡洋艦六隻、水雷敷設艦二隻、當日午前十時旅順口ヲ出發シテ行衛不明ナリトノ電報到リシヲ以テ、即時各驅逐隊、水雷艇隊ヲシテ、佐世保水雷團長ノ指示ニ從ヒ、毎夜交代シテ、港口ノ巡邏警戒ニ任セシメ、(佐世保鎮守府所屬水雷艇隊ハ十二月下旬ヨリ已ニ警戒シシ、アリタリ)無線電信ヲ有

スル各艦ハ、夜間ト雖モ直ニ受信シ得ヘキ準備ヲ整ヘ、且當直艦ハ夜間何時ニテモ當直汽艇ヲ使用シ得ヘキ様爲シ置クヘキヲ令セシカ、四日黎明海軍大臣ヨリ電報到達シ、旅順口ニ於ル有力ナル軍艦ハ修理中ナル一隻ヲ除クノ外、凡テ進發シ、其ノ行先ハ不明ナルヲ以テ、嚴ニ警戒スヘキコト、佐世保、竹敷ニハ、水雷敷設ノ實施ヲ命シタルコト、軍令部參謀海軍大佐山下源太郎ヲシテ、緊急命令ヲ持チ、三日午後六時、直行汽車ニ乘リ、佐世保軍港ニ向ケ出發セシメタルコトノ通知アリタルヲ以テ、東郷司令長官ハ、一令ノ下直ニ出港スルノ準備トシテ、麾下艦船中圓罐ヲ裝備スルモノハ、十節ニ對スル罐數ニ汽釀セシメ、爾餘ノ諸艦ニハ至急點火ノ用意ヲ命シ、且公用ノ外、下士卒ノ上陸ヲ禁シ、以テ後命ヲ待チシニ、夜ニ至リ、更ニ海軍大臣ヨリ露國艦隊ノ所在今尙不明ナリ、彼若シ佐世保軍港口ニ近ツキ、敵意ヲ表スルモノト認ムルトキハ、直ニ之ヲ撃破スヘシトノ命令及ヒ韓國臨時派遣隊タル陸兵、佐世保ニ於テ急速乗船ヲ命セラレタルノ通報アリ、是ニ於テ東郷司令長官ハ、即夜千早ヲシテ志自岐、大立島間ヲ、龍田ヲシテ大立島、崎戸島間ヲ、第五驅逐隊ヲシ

テ片島、黒島間ヲ各巡邏警戒セシメ、且千早、龍田ニハ無線電信ヲ以テ三十分毎ニ異狀ノ有無ヲ報告セシム、又上村第二艦隊司令長官以下各司令官、艦長ヲ旗艦三笠ニ招集シテ、大臣ヨリノ命令ヲ示シ、戰機切迫セルニツキ、益警戒ヲ嚴ニスヘキ旨ヲ訓示セリ、次テ翌五日、山下大佐到著シ、大臣ノ封緘命令ヲ東郷司令長官ニ交附セシカ、同日更ニ之ヲ開封スヘキノ命アリ、是ニ至リ、東郷司令長官ハ始テ發進ノ大命ヲ蒙レリ、

以上記載ノ如ク、聯合艦隊組織以來、東郷司令長官ハ夜々トシテ開戰準備ヲ整ヘシカ、是ト同時ニ終始各戰隊ヲシテ、交、港外ニ出テ銳意諸種ノ訓練ニ從事セシメ、(此ノ行動中、一月二十三日第一戰隊入港ノ際、軍艦敷(島根)テ島瀬ニ座礁セシカ、約三時間ニシテ離礁セリ)就中艦砲射撃ハ、最勵行シタル所ニシテ、内筒砲射撃ノ如キ、機會ノ許ス限り、輒チ之ヲ行ハシメタルヲ以テ、命中比例著シク増加シ、兵員モ亦確乎タル自信力ヲ有スルニ至レリ、

第三節 聯合艦隊ノ戰略及ヒ戰策

我カ海軍當局者ハ開戦ニ際シ、露國艦隊ノ採ルヘキ戰略ヲ推斷シ、由テ以テ機先ヲ制スルノ方法ヲ選ビ、彼ニ一大打撃ヲ加ヘテ、戦局ノ大勢ヲ當初ニ決セント欲シ、夙ニ海軍軍令部ト常備艦隊トノ間ニ於テ、之ニ關スル意志ノ疏通ヲ圖リ、互ニ苦心慘憺シテ、其ノ方法ヲ研究セリ、既ニシテ明治三十六年十

二月中旬ニ至ルヤ、時局頗ル切迫セシヲ以テ、同十五日海軍軍令部長海軍大將子爵伊東祐亨ハ、私信ヲ常備艦隊司令長官東郷中將ニ寄セ、露國ノ戰略ヲ

大要左ノ如ク推斷シ、以テ同長官ノ意見ヲ叩ケリ、

一、總テノ艦隊ヲ旅順口ニ集中シ我ヲ該方面ニ誘引シ可成彼ニ有利ノ海上ヲ撰ヒ我ヲシテ奔走ニ勞セシムルノ策ヲ採ルヘシ最彼ノ顧慮スル

ハ石炭需品ナルカ故ニ朝鮮ノ南岸ニハ來ラサルヘシ

二、巡洋艦四隻驅逐艦六隻ニテ浦潮ニ根據ヲ定メ高速力ヲ利用シテ小樽

及ヒ函館近方ヲ脅シ我カ艦隊ヲ割カントスルノ策ヲ採ルヘシ

三、時機ニ依リ浦鹽旅順ノ艦隊規約ヲ定メ大舉シテ我カ艦隊ニ當ルヘシ

之ニ對シテ、東郷常備艦隊司令長官ハ、同シク私信ヲ以テ、左ノ意見ヲ陳述セ

リ

一、敵ノ戰略ニ就テ閣下ノ推察セラル、所ノ中第一第二ハ最事實トナリ

テ現ル、者ニ近シト思惟ス若シ其ノ第三ニ出ツル者トセハ最早ク勝

敗ヲ決シ得ヘクシテ我カ望ム所ニ合フ者ナリ

二、浦鹽斯德ニ在ル敵ノ大巡洋艦カ我カ北海道ヲ脅ス策ニ對シ我ノ執ル

ヘキ策ハ別ニ無シ唯成ル可ク速ニ横須賀ノ艇隊ヲ津輕海峽ニ派遣シ

置キテ該海峽ノ警備ニ充テ小樽ノ如キハ暫ク彼カ爲ス儘ニ放棄シテ

可ナリ止ムヲ得サレハ鎮遠、扶桑、松島、嚴島、橋立、須磨、明石等ヲシテ敵ニ

當ラシムルモ可ナリ、

三、容易ニ出テ來ラサルヘシト推察スル在旅順ノ敵艦隊ニ對シテ我カ執

ルヘキ戰略ハ左ノ如シ

一、牙山ヲ艦隊ノ根據地、巡威島、錨地ヲ驅逐隊、水雷艇隊ノ根據地トシ兩

地ノ間ニ海底電線ヲ布設シテ氣脈ヲ通ス

二、務メテ頻繁ニ偵察艦ヲ出スハ勿論時々威力偵察ヲ行ヒ敵ヲ誘出セ

ンコトヲ努ム、

十六

三、敵尙出テ來ラサルトキハ我カ陸軍ヲ韓國ニ派遣ス此ノ場合敵ノ襲撃ニ對スル警戒トシテハ山東角附近ハ勿論八口浦ヨリベーカー島間ニ至ル航路ニ當リ一等巡洋艦以下及ヒ驅逐艦ヲ適宜ニ組合セテ巡邏セシメ置ク又此ノ場合在浦鹽ノ敵艦隊我カ背後ヲ襲フノ豫防トシテハ鎮遠、扶桑、松島、嚴島、橋立及ヒ竹敷艇隊ヲ朝鮮海峽ニ備フ

四、右ノ如キ事ヲ繰返シ居ル中ニハ敵艦隊モ終ニ出テ來ルナラント想像ス此ノ時我カ艦隊前記ノ如ク巡邏ノ爲メ分離シアルハ甚シク不利益ナレトモ之ハ相當ノ注意ヲ施セハ此ノ様ナル場合ニ務メテ多ク勢力ヲ集合セシムルノ考案モ附クヘク驅逐艦ヲシテ日没ヲ待チテ襲撃セシムルノ考案モ附クヘシト思惟ス

右ハ先ツ開戦布告アリテ然ル後始テ艦隊ニ行動ヲ起スヘキ命令下ルモノトシテ立案セルモノナリト雖モ廟議愈開戦ト決スレハ敵ノ餘リ警戒ヲ加ヘサルウチ先ツ驅逐隊ヲ八口浦迄派遣シ置キ敵艦

隊ノ動靜ヲ探リ其ノ旅順口外ニ碇泊セルモノ若クハ大連灣ニ在ルモノヲ知ラハ之ヲ急襲セシメテ開戦ノ布告ニ代フルヲ上策ト思惟ス

又豊橋ヲ旅順口ニ沈没セシメテ(石材ヲ満載シ「セメント」ヲ以テ之ヲ固メ)敵ノ出口ヲ防クカ如キハ最奇策ナルヘク唯之ヲ決行スルニハ最有爲ナル將校下士卒ヲ全然死地ニ置カサルヘカラスシテ稍忍ビ難キコトナルモ進ミテ此ノ奇策ニ當ラントスル決死ノ者アルハ大ニ頼母敷事ナリ

五、彼我大艦隊ヲ以テ雌雄ヲ決スルコト、ナレハ之ニ對スル我カ戰策ハ三十三年特命檢閱ノ際上答セルモノト大差ナキモノニテ可ナリ

右末文ニアル旅順口閉塞ノ企圖ハ是ヨリ先キ常磐副長海軍中佐有馬良橘等ノ建策ニ基キタルモノナリ、是ニ於テ軍令部ハ愈研究ヲ重ネ、就中閉塞ニ關シテハ、一月初旬特ニ之ニ充ツヘキ運送船五隻ヲ雇入レ、又一月中旬軍令部參謀財部海軍中佐カ作戰方針ヲ持シテ、聯合艦隊ニ到ルヲ機トシ、軍令部

次長海軍中將伊集院五郎ハ、東郷聯合艦隊司令長官ニ向ヒ、閉塞ヲ斷行スル際ニ於テモ、出來得ル限リノ手段ヲ盡シ、之ニ從事セシ者ヲ收容スルノ手段ヲ講シ、又其ノ事ニ當ル人々モ、徒ラニ死ヲ屑クスルコトニノミ熱心セス、出來得ヘクンハ百難ヲ排シテ生還シ、他日更ニ大ナル奏功ヲ期セラレタキ希望ナル旨ヲ告ケ、尋テ同二十四日同次長ハ更ニ聯合艦隊ノ前進根據地ヲ何レニ選定スルモ、八口浦ニハ成ルヘク常ニ通信用艦船ヲ配備シ、以テ本部トノ連絡ヲ保持スルノ計畫アリタキコト、在絶東露國陸軍兵力移動集中ノ近況ニ依リ察スルニ、彼ハ我カ軍ノ攻撃目標ハ浦鹽斯德ニシテ、其ノ上陸ヲ試ミントスルハポシエツト附近ナラント推斷シ居ルモノ、如キコトヲ申送レリ、爾來東郷聯合艦隊司令長官ハ愈研究ヲ重ネ、三十七年一月三十一日左ノ意見ヲ軍令部長ニ提出セリ、

一 令ノ下第一第二驅逐隊ヲシテ旅順口港外敵艦隊ヲ急襲撃セシムルノ目的ヲ以テ豫メ該兩隊ト春日丸龍田ヲ八口浦マテ派遣シ置キタシ其ノ時期ハ主力出發ヨリ尠クモ二日前ナルヲ要スルカ故ニ其ノ御含ニテ右

ノ如ク取計差支ナキ旨主力發進ヲ命セラル、前豫達セララル、様希望スル旅順口閉塞ハ第一著ニハ施行セス又、コロク(陸軍韓國陸時派遣隊)ハ牙山附近ニ上陸セシムルカ最得策ト思考ス

是ニ於テ伊東軍令部長ハ、山本海軍大臣ト協議ノ上、二月一日左ノ答電ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ發セリ、

第一第二驅逐隊春日丸及ヒ龍田ヲ前以テ八口浦マテ派遣シ置カル、コトハ差支ナキ考ニシテ其ノ出發時機ヲ御希望通り通知スルコトモ出來ル見込ナリ右ノ時機通知ノ後其ノ他ノ戰隊モ艦隊ノ行動ヲ晦ス爲メ主力出發以前ニ演習等ノ名義ヲ以テ、便宜伊萬里カ五島邊マテ進メ置カレテハ如何

同日伊集院軍令部次長モ亦左ノ電報ヲ發シ、襲撃ノ豫定期日ヲ問合セタリ、第一第二驅逐隊ノ旅順港外敵艦隊ヲ急襲撃スルハ發令後第何日ノ豫定ナルヤ又天候等ノ爲メ其ノ襲撃ヲ實行スルコト能ハストスレハ次ニ第一打撃ヲ敵ニ加フルハ何隊ニシテ且其ノ日取ハ第何日ニナルヘキヤ返電

ヲ乞フ

右伊集院軍令部次長ノ質問ニ對シ、二月二日東郷聯合艦隊司令長官ハ左ノ答電ヲ發セリ、

第一驅逐隊第二驅逐隊旅順口急襲ハ發令ヨリ第二日ノ夜ヨリ翌朝黎明迄ノ管天候ノ爲メニ此ノ計畫通り實行シ得サルトキハ其ノ風キ次第矢張第一驅逐隊第二驅逐隊ヲシテ實行セシムルノ考ナリ

然レトモ伊集院軍令部次長ハ尙襲撃ノ確實ナル時期ヲ知ラント欲シ、更ニ左ノ電報ヲ發シテ之ヲ確メタリ、

最初ノ打撃ヲ露國艦隊ニ加フルノ時期ハ外交上ノ最後ノ手續ヲ取ルニ至大ノ關係ヲ有ス返電ニ依レハ天候ノ如何ニ依リ其ノ時期確定セサルカ如シ第二日ノ夜驅逐隊ノ襲撃出來サル場合ニハ翌朝戰隊ヲ以テ攻撃セラレサルヤ前段ノ主意ニ基キ可成確實ノ時機ヲ至急回答アラシムコトヲ希望ス

蓋外交上ハ、交渉ヲ斷絶スルニ當リ、深ク慮リテ列國ノ非難ヲ受ケサル迄ニ、

遺漏ナク手續ヲ盡サ、ル可ラサルモ、戰略上ハ、敵ノ備ナキニ乘シテ一大打撃ヲ與フルヲ得策ト爲スカ故ニ、出來得ル限り確實ニ襲撃ノ時機ヲ定メ、間髪ヲ容レサルノ機ニ於テ、之ヲ決行セサル可ラサルヲ以テナリ、而テ之ニ對シ、東郷司令長官ハ三日左ノ回答ヲ爲セリ、

我カ艦隊ヲ敵ノ強勢ナル海岸砲臺砲火ノ下ニ暴露セシムルハ本職ハ戰略上寧ろ最後ノ手段ト考ヘ居レリ故ニ其ノ砲臺掩護ノ下ニ在ル艦隊ヲ攻撃スルニモ成ルヘク戰隊ヲ用ヒス驅逐隊ノ夜襲ニ依ラントス其ノ時期ハ天候ノ爲メニ左右セララル、コトハ免レサルモ先ツ第二日ノ夜ニ實行出來サレハ第三日ノ夜ハ出來ルモノト豫期シテ外交上ノ手續ヲ取ラレテハ如何

然ルニ中央部ニ於テハ尙熟議ノ結果、驅逐艦ノミヲ先發セシメテ、最初ノ打撃ヲ露國艦隊ニ與フルハ、頗ル危険ノ慮アルカ故ニ、艦隊ヲシテ敵所在地ノ附近マテ之ヲ掩護セシメ、然ル後始テ單獨行動ニ移ラシムルヲ得策ト認メタルヲ以テ、三日軍令部參謀山下海軍大佐ノ重要命令ヲ持シテ、艦隊ニ派遣

セラル、ヲ機トシ、右ノ意見ヲ申送りシカ、幾モナク廟議一決シ、露國ニ最後ノ通牒ヲ爲スト同時ニ、聯合艦隊ニモ發進命令下ルコト、爲リタルヲ以テ、聯合艦隊ノ希望タル豫メ驅逐艦等ヲ前進セシメ置クノ策モ自然實行シ難キ場合ト爲リ、伊集院軍令部次長ハ同日左ノ電報ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ發セリ、

外交上最後ノ手續ヲ爲スト同時ニ艦隊發進ノ命令下ルコトニ決定セラレシ故ニ主力發進二日前ニ第一第二驅逐隊等ヲ八口浦マテ進メ置キ急襲ヲ爲スノ策ハ自然變更ノ必要アルヘシト考フ此ノ電報ハ山下大佐ニ示サレタシ

是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ豫期ヲ變シ、發進命令ヲ受ケテ後、艦隊ト共ニ驅逐隊ヲモ伴ヒテ旅順口附近ニ至リ、始テ之ヲ分離進進セシメテ、急襲ヲ爲シ、若シ天候ノ爲メニ妨ケラレテ、之ヲ斷行スル能ハサル時ハ、臨機日程ヲ順延スルコトニ決定セリ、是ヲ開戦ニ關スル戰略研究ノ顛末ト爲ス、是ノ如ク海軍當局者ハ、急襲ノ方法ニ付テ肝膽ヲ碎キ、又一面ニ於テハ、東

郷聯合艦隊司令長官ハ彼我兩艦隊ノ全部洋中ニ決戦スル場合ニ於ル戰法ヲ策定シ、之ヲ各部隊ノ戰闘任務、各部隊ノ戰闘陣形及ヒ戰闘速力、戰闘中ノ通則戰闘序列及ヒ陣列、戰闘ノ開始及ヒ運動ノ要領等ニ分チ、聯合艦隊戰策トシテ、三十七年一月九日之ヲ麾下ノ將校ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

本戰策ハ我カ聯合艦隊ノ全部カ略均勢ノ敵艦隊ト洋中ニ遭遇シテ之ト決戦スル戰法ノ綱領ヲ豫示スルモノナリ、固ヨリ作戰ノ情況ハ彼我孰ルトコロノ戰略ニ準シ變化シテ窮リ無ク常ニ必スシモ海上ニ正々ノ對抗ヲ期ス可ラサルヲ以テ豫メ未然ヲ推測シテ精細ノ策定ヲ置クコト難シ、故ニ茲ニ指示スルトコロハ單ニ全隊ノ戰闘ニ於テ各部隊協同動作ノ鎖鑰トシテ缺ク可ラサル必須ノ事項ノミヲ掲クルニ過キス、若シ夫現實ニ敵ト對面スルニ至レハ時ノ情勢ニ準シ、尙臨機示令スルトコロアルヘシ、

一、各部隊ノ戰闘任務

(一) 第一及ヒ第二戰隊ハ主戰隊トシテ敵ノ二等巡洋艦以上ヲ擊破スル

- ニ任シ決戦期ヲ經過シテ追撃ニ轉スル迄ハ勉メテ個々ノ行動ヲ執
 ラス終始相呼應シテ戦闘スルモノトス
- (二) 第三及ヒ第四戦隊ハ遊撃隊トシテ劣勢ナル敵ノ巡洋艦隊、驅逐隊ノ
 撃破其ノ他敵ノ損傷艦、孤立艦等ノ撃滅、追捕等ニ任シ、又敵ノ快速巡
 洋艦ニ對シ我カ驅逐隊ヲ掩護スルモノトス
- (三) 千早、龍田ハ主トシテ敵ノ驅逐隊、水雷艇隊ヲ蹂躪撃攘スルニ任シ好
 機アレハ敵ノ艦隊ニ水雷攻撃ヲ試ミルモノトス
- (四) 各驅逐隊及ヒ各水雷艇隊ハ戦闘ノ初期ハ戦ヲ避ケテ適宜ニ運動シ
 好機ヲ見テ敵艦隊ニ對シ突撃シ又敵軍壊亂シテ敗走スルニ至レハ
 他ク迄之ニ追尾シ夜陰ニ乘シテ轟沈スルヲ努ムルモノトス
- 二、各部隊ノ戦闘陣形及ヒ戦闘速力
- (一) 各部隊ノ戦闘陣形ハ指揮艦先頭ノ單縱陣ヲ基本トシ時宜ニ依リ一
 齊回頭ヲ以テ陣形ヲ變ス
- (二) 各部隊ノ戦闘速力左ノ如シ

第一戦隊

十五節

第二戦隊

十七節

第三戦隊

十八節

第四戦隊

十五節

千早、龍田各驅逐隊及ヒ艇隊 適宜

右ノ如ク各隊ノ戦闘速力ヲ定ムト雖モ戦況ニ準シ各隊其ノ速力ヲ
 加減スルコトヲ得、但戦闘中ハ速力信號ヲ掲クルヲ要セスト雖モ回
 轉信號ハ常ニ掲ケ置クモノトス

三、戦闘中ノ通則

- (一) 第一及ヒ第二戦隊ハ主トシテ戦闘ニ任スルヲ以テ爾餘ノ諸隊ハ此
 ノ二隊ノ運動ヲ妨ケサルコト
- (二) 損傷災變等ノ爲メ一時運動ヲ與ニスル能ハサル艦ハ單ニ不關旗一
 旂ヲ掲ケテ適宜列外ニ出ツルコト
- (三) 敵ノ集散ニ準シ我カ隊ヲ分離スルコトアルモ勉メテ小隊單位ヲ保

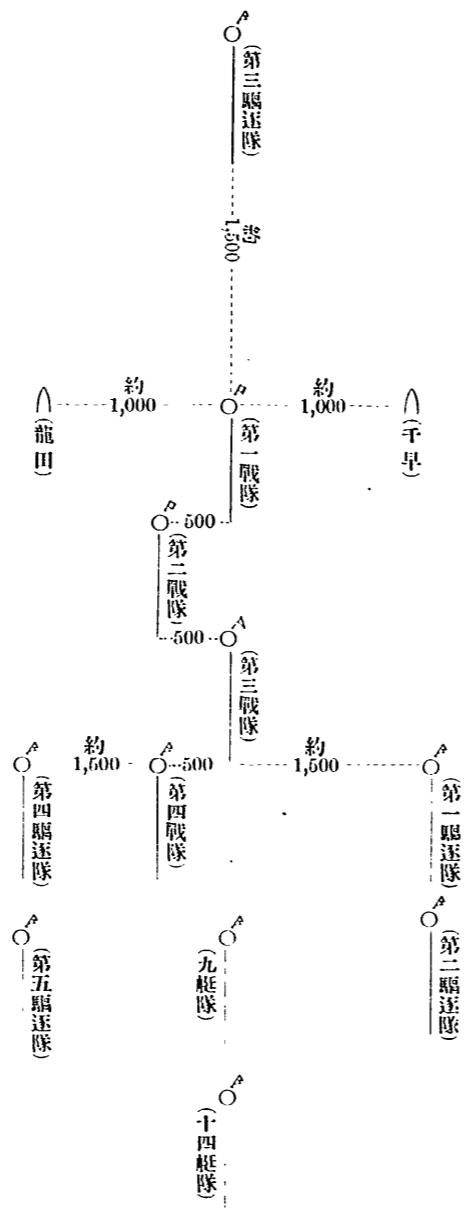
持スルコト

(四) 夜間敵艦隊トノ戦闘ニハ各艦航海燈、速力燈ヲ點シ且櫓頭ニ(赤)自二燈ヲ連掲スルコト

(五) 夜中ノ戦闘ニハ可成開戦前ノ速力ヲ用ヒ且一齊回頭ヲ行ハサルコト

四、戦闘序列及ヒ陣列

敵艦隊ノ所在ヲ確知シ是ト會戦スルニ決スルトキハ先ツ信號若クハ電信ヲ以テ附近ニ散在スル全軍ヲ集團ス、是ニ於テ各部隊ハ其ノ當時搜索、偵察、警戒等ノ任務ニ従事スルモノト然ラサルモノトヲ問ハス各自其ノ廳下ヲ纏メテ急速第一戦隊ノ所在ニ來集ス
次テ「戦闘序列ニ占位セヨ」ノ旗信ニ依リ第一戦隊ハ漸次戦闘速力ニ増速シ敵ニ會スルニ適當ナル地點ニ向ヒテ進ミ其ノ他ノ諸隊ハ左圖ノ如ク第一戦隊ヲ基準トシテ右先鋒閉間隔ノ隣次陣列ヲ形成ス



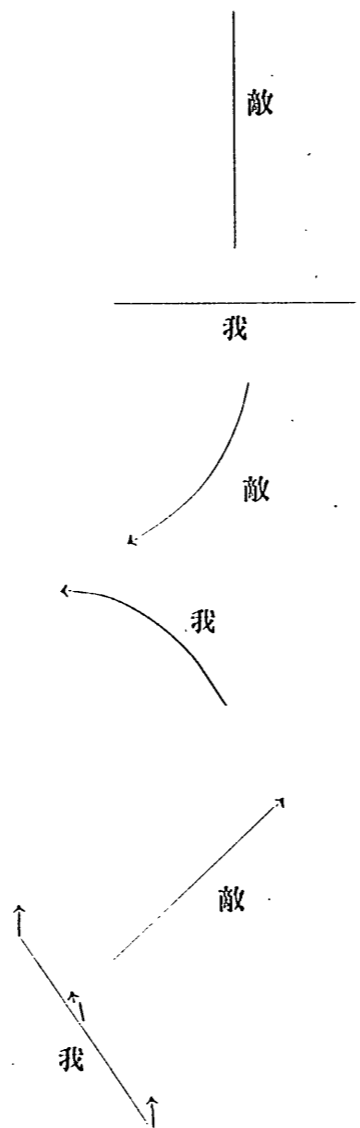
此ノ陣列ニテ航進中各部隊ノ速力ハ第一戦隊ノ戦闘速力ニ準スルモノトシ第一戦隊ハ終始任意ノ針路ヲ執リ其ノ他ノ諸隊ハ之ニ準シテ其ノ位置ヲ占メ敵ト約八千米突ノ距離ニ接近スル迄此ノ陣列ヲ保持スルモノトス

又千早、龍田及ヒ第三驅逐隊ハ特ニ敵ノ驅逐隊又ハ水雷艇隊ノ急襲ニ對シ前方ヲ警戒シ若シ敵襲アレハ挺進シテ極力之ヲ撃攘スルニ任ス
五、戦闘ノ開始及ヒ運動ノ要領

前項ニ指示スル陣列ヲ保持シテ敵ニ近接シ己ニ戰鬪距離ニ入ラントスルニ至レハ總指揮艦ハ戰鬪旗(大艦頭ニ)ヲ掲ケテ戰鬪ヲ令ス、是ニ於テ第三驅逐隊及ヒ千早龍田ハ(敵驅逐隊等ノ來襲ナキ限り)轉回シテ後方ニ退キ戰隊ノ進路ヲ開キ爾餘ノ各驅逐隊及ヒ水雷艇隊ハ非戰側ト認ムル方ニ轉位シ各戰隊ハ序列ヲ解キテ各自ノ戰鬪速力ニ増速シ左ニ記スルカ如ク行動ス

(一) 第一戰隊ハ最攻撃シ易キ敵ノ一隊ヲ選ヒ其ノ列線ニ對シテ左記ノ如ク(丁)字ヲ畫キ可成的敵ノ先頭ヲ壓迫スル如ク運動シ且臨機適宜ノ一齊回頭ヲ行ヒ敵ニ對シ丁字形ヲ保持スルニカメントス、而テ此ノ當初ノ攻撃點ハ必スシモ敵ノ主力ヲ目掛ケスシテ其ノ時ノ敵ノ隊制ニ應シテ最我カ攻撃ニ有利ト認ムル點ヲ選フモノト知ルヘシ

(第一例)



(第二例)

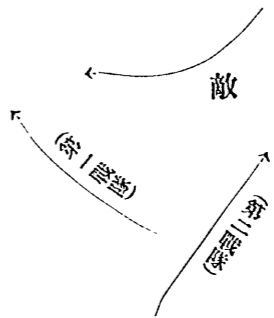
(第三例)

然レトモ我斯ク運動スレハ敵モ亦相應ノ運動ヲ執ルヘキカ故ニ結局遂ニ彼我相竝航スルカ或ハ反航スルニ至ルヘシト豫期セサル可ラス、然ルトキハ敵ト適當ノ戰鬪距離ヲ保持スルタメ臨機四點以內ノ一齊回頭ヲ行ヒ或ハ戰鬪側ヲ變スルタメ十六點ノ一齊回頭ヲ行フコトアルヘシ、

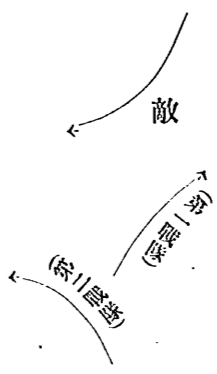
(二) 第二戰隊ハ第一戰隊ノ當レル敵ヲ又撃又ハ挾撃スルノ目的ヲ以テ敵ノ運動ニ注意シ或ハ第一戰隊ニ續航シ或ハ反對ノ方向ニ出テ左圖ニ示スカ如ク可成的第一戰隊ト共ニ(○)字ヲ畫クノ方針ヲ以テ機

宜ノ運動ヲ執リ、我カ兩戰隊ノ十字火ヲ以テ敵ヲ猛撃スルニ努ムル
モノトス

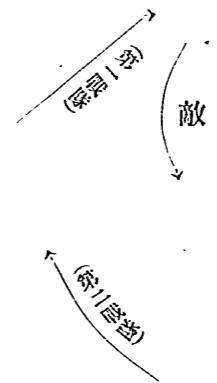
(第一例)



(第二例)



(第三例)



斯ノ如ク戰鬪ヲ開始シタル後ハ第一及ヒ第二戰隊ハ特ニ攻撃ノ主
從ヲ定メス時ノ對勢ニ準シテ兩隊交、主撃從撃ノ位置ニ立チ相呼應
シテ一敵ニ對シ猛烈ナル協力攻撃ヲ爲シ順次ニ敵ノ他隊ニ及ホス、
要ハ唯個々ニ敵ヲ選ハスシテ敵ノ一部ニ我カ全力ヲ集注スルニア
リ

(三) 第三及ヒ第四戰隊ハ第一項ニ指示スル各自ノ任務ヲ服膺シテ適宜
ノ運動ヲ執リ終始敵軍ノ集散離合ニ著眼シ特ニ敵ノ巡洋艦ノ運動

ニ注意シテ是ト對抗シ敵ヲシテ我カ驅逐隊水雷艇隊等ヲ攻撃セシ
メサルヲ要ス

又好機アレハ時々横合ヨリ主戰隊ト合戦スル敵隊ノ一翼等ヲ猛撃
スヘシ(主戰隊ノ運動ヲ妨ケサル限り)

全局ノ戰鬪已ニ決戦期ヲ經過シ敵ノ損傷艦孤立艦等ノ現出スルニ
至レハ機ヲ失セス之ヲ急撃シテ其ノ勢力ヲ恢復スルニ遑無カラシ
メ又戰場外ニ逃走セントスル敵艦アレハ全速追窮シテ之ヲ逸セサ
ルヲ要ス

(四) 千早、龍田ハ第一項ニ指示スル任務ヲ服膺シテ各單獨機宜ニ準ヒ挺
進シテ敵ノ驅逐隊水雷艇隊ヲ追廻シ、之ヲ撃滅スルニ努メ、又好機ア
レハ敵ノ孤立、損傷艦等ニ對シ水雷攻撃ヲ試ミルヘシ、

(五) 各驅逐隊及ヒ水雷艇隊モ第一項ニ指示スル任務ヲ服膺シテ戰鬪ノ
初期ハ適宜敵ノ彈著距離以外ニ運動シテ戰鬪ノ經過ニ注意シ好時
機到來セハ(我カ戰隊鍛鋼榴彈ノ射撃効力ヲ現シ敵副砲臺以下ノ砲

火漸次衰へタルヲ見シトキノ如キハ最好機會ナリトス(勇往奮進シテ敵艦隊ヲ突撃スヘシ、而テ第一驅逐隊ハ第二驅逐隊ト、第四驅逐隊ハ第五驅逐隊ト、第十四艇隊ハ第九艇隊ト相協同シテ襲撃ノ効果ヲ收ムルヲ可トス但第三驅逐隊ハ終始單獨遊撃スルモノトス、又敵ノ艦船四散シテ敗走スルニ至レハ適宜小隊單位ニ分離シテ飽ク迄モ之ニ追尾シ夜陰ニ乗シ轟沈スルヲ力メ、時宜ニ依リ敵ノ軍港附近ニ先廻リシ、其ノ歸來ヲ待テ襲撃ヲ果スモ可ナリ、

六、各部隊個々ノ戰策其ノ他砲煩、水雷ノ使用ニ關スル事項等ハ各部隊指揮官之ヲ定ムルモノトス、(聯隊機密 第二六號)

右ハ聯合艦隊全部合同シテ敵ノ艦隊ニ當ル際ニ於ル戰法タリ、尙別ニ東郷第一艦隊司令長官ハ第一戰隊ノミニテ敵ト對戰スル場合ノ戰法ヲ定メ、戰鬪陣形及ヒ戰鬪速力、戰法、砲煩、水雷ノ使用ニ關スル事項等ヲ分チ、第一戰隊戰策トシテ、一月十日之ヲ同隊ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

本戰策ハ第一戰隊カ單獨ニテ敵ノ艦隊ト格鬪スル戰法ノ綱領ヲ豫示ス

ルモノナリ、惟フニ當戰隊ノ如ク攻撃力及ヒ防禦力共ニ強大ナルモノハ如何ナル優勢ノ勁敵ニ對スルモ我カ全力ヲ集團シテ個々ニ敵ヲ擊破スルノ戰術ヲ以テ戰フトキハ寸毫モ不覺ヲ取ルヘキモノニアラス、故ニ以下指示スル戰策ハ敵ノ優勢ナルト劣勢タルトニ拘ラス之ヲ應用スルモノト知ルヘシ

一、戰鬪陣形及ヒ戰鬪速力


(イ) 戰鬪陣形ハ本職旗艦ヲ先頭トシ司令官旗艦ヲ後尾トセル蛇行單縱陣ヲ基本トシ機宜ニ應シ一齊回頭ヲ以テ橫列若クハ梯列ヲ制リ又十六點ノ一齊回頭ヲ以テ逆番號ニ轉迴シ殿艦ヲシテ嚮導セシム、故ニ之ヲ操縱スルニ及ンテハ首尾ト正面ヲ定メサル一鏈ノ單列ト謂フヲ適當トス、而テ其ノ艦隊區分左ノ如シ、

- | | | |
|-----------------------------------|--------|--------|
| | 第一小隊 | 第二小隊 |
| (一) 三笠 | (二) 朝日 | (三) 富士 |
| (四) 八島 | (五) 敷島 | (六) 初瀬 |
| (ロ) 戰鬪速力ハ十五節ヲ基本トシ特令ナケレハ常ニ此ノ速力ヲ用フル | | |

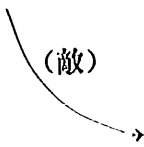
モノトス、但敵ノ速力如何ニ依リ、高速力ヲ用フルノ必要ナキ場合ニハ、臨機十四節以下ニ減速スルコトアルヘシ。

又戰鬪速力ノ令アリタル後ハ、各艦ハ速力信號ヲ撤シ、回轉信號ノミヲ掲ケ置クモノトシ、爾後速力ヲ増減スルニハ、其ノ都度信號ヲ以テ之ヲ令ス、而テ半速ハ常ニ現在速力ノ二分ノ一、又微速ハ四節ト定ム。

二、戰法

當戰隊ノ基本戰法ハ聯合艦隊戰策第五項第一號ニ指示スル丁字戰法ニ外ナラスシテ、其ノ要旨ハ丁字形ノ正ト不正ヲ間ハス、常ニ敵ノ列線ニ對シ、形ヲ保持シ、我カ全線ノ砲火ヲ敵ノ列端ニ集注スルニ力メ、已ム無クンハ敵ト竝航若クハ反航シテ對等ノ砲火ヲ交ヘントスルニアリ、而テ其ノ戰鬪距離ハ時ノ對勢ニ準シ、終始適當ニ保持スルコト難シト雖モ、爲シ得ヘクンハ我カ戰列ノ最近距離ヲ三千米突内外ニ選ハントスルモノナリ。

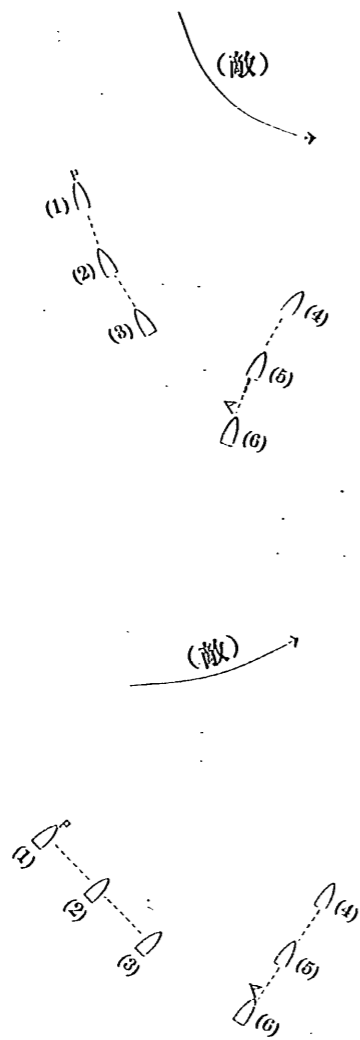
又敵ノ艦隊劣勢ナルトキハ時宜ニ依リ、小隊單位ニ分離シ、聯合艦隊戰

策第五項第二號ニ指示スル乙字戰法ヲ執リ、敵ヲ又撃セシムルコトアルヘシ、標時旗一旒ヲ掲ケテ之ヲ令ス。

其ノ時第二小隊ノ嚮導艦ハ機宜ヲ見テ、右方若クハ左方ニ出テ、左ノ圖例ニ示スカ如ク、第一小隊ト乙字ヲ畫クノ方針ヲ以テ、分離ノ運動ヲ執リ、爾後我カ兩小隊相呼應シテ協力又撃ノ運動ヲ續行スルモノトス。

(第一例)

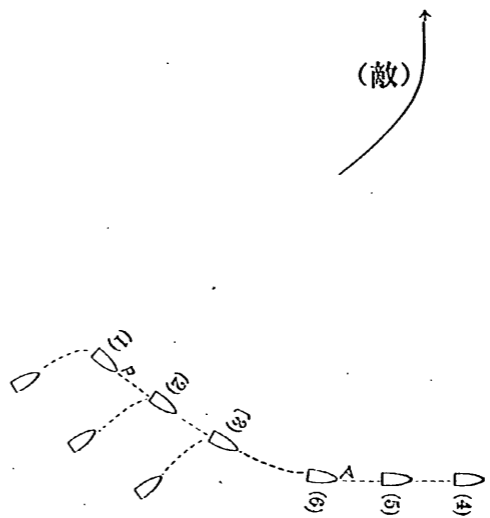
(第二例)



又乙字戰法ニテ戰鬪中更ニ單列ニ復シ、丁字戰法ヲ執ルヲ利トスル場合ニハ、時ノ對勢ニ應シテ、第一若クハ第二小隊ハ適宜一齊回頭ヲ行ヒ

左圖ノ一例ニ示スカ如ク他ノ小隊ニ續航スルコトアルヘシ此ノ時艦船番號ノ順序ヲ混亂スルコトアレトモ敢テ之ニ顧慮セスシテ適宜ノ單縦列ヲ制ルモノトス

(第三例)



之ヲ要スルニ當隊ノ戰法ハ丁字戰法ヲ基本トシ時宜ニ依リ小隊單位ニ分離シテ乙字戰法ヲ混用スルモノナリ而テ此ノ戰法ハ本來戰列ノ首尾ナキモノナレハ之ヲ實施スルニ當リテハ其ノ時ノ先頭若クハ基

準翼ニ立テル艦カ常ニ嚮導ニ任シ敢テ指揮權ノ先任後任等ニ拘泥セサルモノトス

三、砲煩、水雷ノ使用ニ關スル事項

(イ) 發砲開始ノ時機ハ特ニ之ヲ令セサルヲ以テ敵ト六。千。米。突。以。内。ノ。射。距離ニ入レハ各艦長ノ所信ヲ以テ適宜ニ有効ナル砲撃ヲ開始スルモノトス、但三。千。五。百。米。突。以。上。ニ。於。テ。百。發。一。中。ヲ。期。シ。テ。急。射。濫。發。ス。ル。等。ノ。コ。ト。ナ。キ。ヲ。要。ス。

(ロ) 射撃ノ目標ハ戰法ノ趣旨ニ基キ勉メテ敵ノ先頭、後尾若クハ翼端ニ集彈スルニアリト雖モ對勢ノ如何ニ依リテハ之ニ拘泥スルコトナク各艦任意ニ其ノ艦ノ砲力ヲ最大ニ利用シ得ルト認ムル目標ヲ選擇スレハ可ナリ。

(ハ) 丁字戰法及ヒ乙字戰法ハ共ニ砲煩ノ主用ヲ趣旨トセルカ故ニ特ニ水雷發射ノ時機ヲ制ル爲メニ、我カ陣形ヲ變シ、或ハ敵ニ近接スルコトナシト雖モ對戰中水雷利用ノ好機アレハ各艦任意ニ其ノ甲種水

雷ヲ發射スヘシ而テ之カ爲メ列中ノ艦々ハ一時二點。以内ニ限り其ノ艦首ヲ轉スルコトヲ得ルモノトス(第一戰機密)

上村第二艦隊司令長官モ亦第二戰隊ノミ敵ト對戦スル場合ニ於ル戰法ヲ策定シ、戰鬪陣形、戰鬪速力、戰法、砲煩ノ使用、魚形水雷ノ使用、驅逐艦及ヒ水雷艇ニ對スル砲撃及ヒ運動等ニ分チ、第二戰隊單獨戰々策トシテ、一月二十一日之ヲ同戰隊ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

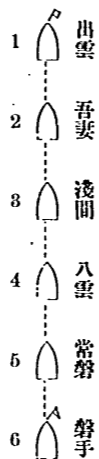
一、本戰策ハ第二戰隊カ單獨ニテ敵ノ艦隊ト戰フニ際シ採ルヘキ戰法ノ綱領ヲ示定ス

二、本戰策ハ聯合艦隊戰策ノ如ク丁字戰法ヲ基本トシ我カ艦隊敵ヨリモ優勢ナル場合ニ於テ乙字戰法ヲ併用ス

戰鬪陣形

三、戰鬪陣形ハ本職ノ旗艦ヲ先頭トシ司令官ノ旗艦ヲ後尾トナセル蛇行單縱陣ヲ基本トシ必要ニ應シ隊次及ヒ陣形ノ變換ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ先頭若クハ基準翼ニ立チタル艦ハ常ニ嚮導ノ任ニ當リ指揮權

ノ高下ニ關セス後續諸艦ヲ有利ノ位置ニ導クコトニ留意スヘシ



各艦ハ常ニ常距離以内ニ占位スル如クカムルヲ要ス

戰鬪速力

四、戰鬪速力ヲ十七節トシ特令ナケレハ常ニ此ノ速力ヲ用フ

但微速力ヲ五節トシ現在速力ト微速力トノ中間ニ當ル速力ヲ半速力トス

五、戰鬪中ハ特別ノ場合ノ外迴轉信號ノミヲ掲ケ速力信號ヲ掲クルコトナシ

戰法

六、優勢若クハ均勢ナル敵艦隊ト對戦スル場合ニ於テハ成ルヘク基本陣形ヲ維持シ速力ヲ利用シ、敵ノ列線ニ對シ丁字形ヲ畫キ我カ全線ノ火力ヲ敵ノ先頭若クハ其ノ一端ニ集注スルヲカムヘシ而テ交戰中先頭

艦ノ準據スヘキ運動ノ要領ハ概ネ左ノ如シ

(イ) 先頭艦ハ常ニ敵ノ先頭艦若クハ己ニ近キ翼艦ヲ目懸ケテ直進シ距離凡八千米突ニ達シタルトキ便宜右方或ハ左方ニ針路ヲ轉スヘシ

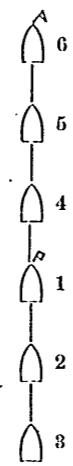
(ロ) 彼我運動ノ結果反行ノ状態トナリタル場合ニ於テハ速力ヲ利用シ常ニ敵ノ先頭後尾若クハ翼端ニ丁字形ヲ畫ク如キ運動ヲ取り一通過ヲ終リタルトキハ敵ト反對ニ舵ヲ轉スル如ク運動スルヲ例トスヘシ

(ハ) 同行ノ場合ニ於テハ敵外方ニ艦首ヲ轉セントスル模様アルトキ及ヒ敵艦隊我ヨリモ前進ノ状態ニ在ルトキハ己モ亦外方ニ轉シ我カ艦隊敵ヨリモ前進セルトキハ速力ヲ利用シ敵ノ先頭ニ丁字形ヲ畫ク如ク運動スヘシ

(ニ) 同行反行ニ論ナク敵艦隊其ノ針路ヲ變シタルノ結果トシテ我カ艦隊不利ノ状態ニ陥ルヘキ惧アリト認メタル場合ニ在ラサレハ可成針路ヲ變セサルヲ宜トス

(ホ) 彼我運動ノ結果トシテ近距離ニ入ルコトアルモ成ルヘク三千米突以内ニ近ツカサルコトニ注意スヘシ

七、敵艦隊我ヨリモ劣勢ナル場合ニ於テモ前號ニ準據シ運動スヘシ然レトモ敵ノ劣勢ナル艦隊ニ對シ攻勢ヲ採ラント豫期スル場合ニ於テハ左ノ如キ隊次ヲ採ルコトアルヘシ

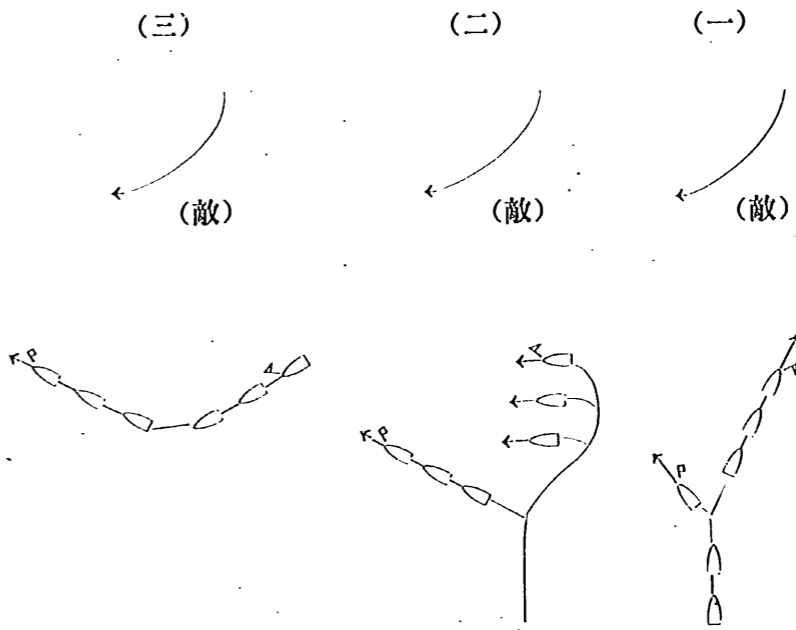


此ノ場合ニ於テハ前ニ明示シタル諸項ノ外左ノ要領ニ從フ但此ノ運動法ハ敵ヲ強撃シ同行戦ヲナサシムルニ適ス

〔運動法〕本職ノ旗艦ハ機ヲ看齊動旗一旒ヲ掲ケ便宜艦首ヲ左方若クハ右方ニ(凡八點)轉シ第一小隊ノ諸艦ハ其ノ通跡ヲ進ミ第二小隊ノ諸艦ハ齊動旗ノ下ルヲ待チ直航運動ヲ採リ速力ヲ増加シ成ルヘク砲力ノ減少ヲ避ケツ、新正面ニ蛇行單縱陣ヲ制ル

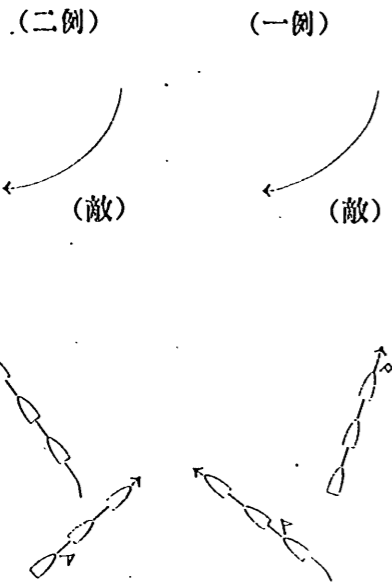
但敵ノ運動ノ變化ニ依リ右ノ運動ヲ中止スルヲ利ナリト認メタルトキハ更ニ否信旗ヲ附シタル齊動旗ヲ掲ケ之ヲ報スヘシ

右ノ運動ハ艦隊他ノ隊次ニアル場合ト雖モ之ヲ行フコトアリ此ノ場
 合ニ於テハ後尾小隊ノ先頭艦ハ前示旗艦ト同一ノ運動ヲ採リ他ノ諸
 艦モ之ニ準シテ運動スヘシ



但發動ノ時機ハ本職ノ旗艦ニ揚ケタル齊動旗ヲ以テ之ヲ示ス

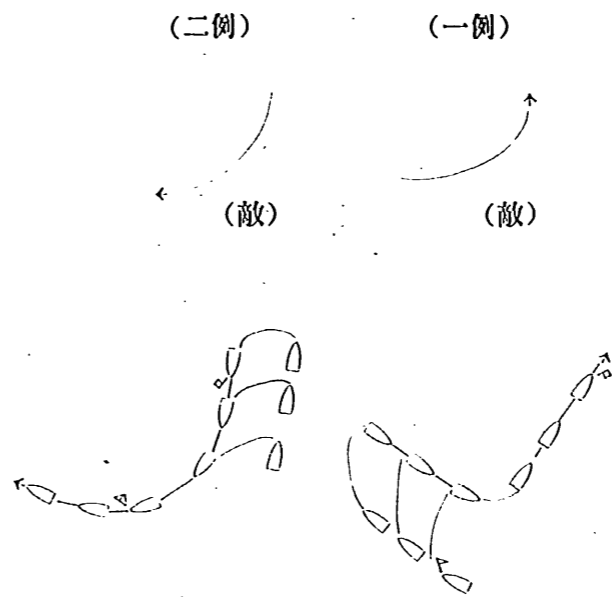
八、交戦中我カ艦隊ノ一部ヲ放チ乙字戦法ヲ實行セシメントスルトキハ
 本職ノ旗艦ニ標時旗ヲ掲ケテ之ヲ報ス場合ニ依リテ艦名ヲ掲ケ此ノ
 運動ヲナスヘキ軍艦ヲ指示スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ第二
 小隊指示艦ハ其ノ指揮官ノ信號ニ依リ運動スヘシ
 但此ノ運動ノ結果トシテ各隊往々孤立ノ勢ヲナシ艦隊ノ不利ヲ惹起
 スルコトアルカ故ニヨク此ノ點ニ注意シ常ニ相互ニ連絡ヲ保持スル
 ヲ要ス



第二小隊針路ヲ變シ乙字戦法ヲ行フ場合

第一小隊針路ヲ變シ乙字戦法ヲ行フ場合

乙字戦法ニテ交戦中更ニ單列ニ復シ丁字戦法ヲ採ルヲ利トスル場合ニ於テハ情況ニ應シ第一若クハ第二小隊ハ適宜齊動ヲ行ヒ他ノ小隊ニ續航スルヲ要ス斯ノ如キ場合ニ於テハ番號ノ順序ニ顧慮セス適宜單縦列ヲ制ルモノトス



第一小隊先頭ノ單列トナル場合

第二小隊先頭ノ單列トナル場合

砲煩ノ使用

九砲戦開始ノ時機ハ特令セス之ヲ各艦長ノ所信ニ委任ス但四千五百米

突以上ニ在リテハ成ルヘク急射撃ヲ避ケ精密ニ射撃諸元ノ修正ヲ行ヒ四千五百米突以内ニ在リテハ敵艦ノ速力ニ關スル修正ヲ省キ常ニ敵ノ艦首ヲ照準セシムルヲ要ス

魚形水雷ノ使用

十、艦隊ハ特ニ水雷發射ノ時機ヲ制ランカ爲メ陣形ノ變換ヲ行ヒ或ハ敵ニ近接スルノ運動ヲ採ルコトナキカ故ニ常ニ發射ノ準備ヲ整ヘ時機ヲ逸セサルコトニ注意スヘシ
但對戰中水雷使用ノ好機アルトキハ各艦便宜ニ點以内一時其ノ艦首ヲ轉スルコトヲ得ヘシト雖モ發射ヲ終リタル後速ニ原針路ニ復スルヲ要ス

驅逐艦及ヒ水雷艇ニ對スル砲撃及ヒ運動

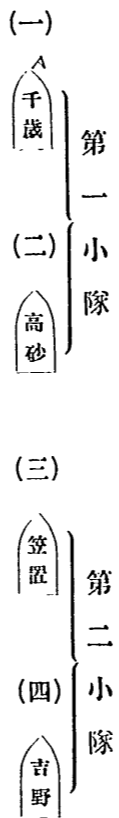
十一、驅逐隊若クハ水雷艇隊我カ艦隊ニ攻撃ヲ加ヘンカ爲メ猛進シ來ルヲ發見シタルトキハ常ニ敵ノ前方半艇身ニ照準線ヲ導キ發射スヘシ
但場合ニ依リ齊動ヲ行ヒ水雷ノ攻撃ヲ避ケ且砲力ノ増加ヲ計ルコト

アルヘシ、(二戰機密)
第一號

第一艦隊司令官海軍少將出羽重遠モ亦第三戰隊ノミ敵ト對戦スル場合ニ於ル戦法ヲ策定シ、戰鬪陣形、戰鬪速力、戰鬪開始、戦法、砲煩使用ノ守則、水雷使用ノ守則、各艦自由運動ヲ爲シ得ル場合、第三戰隊特有任務ニ對スル戦法等ニ分チ、第三戰隊戦策トシテ、一月廿日之ヲ全戰隊ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

本戰隊ハ聯合艦隊ノ耳目トシテ搜索偵察等ノ戰略的任務ニ從事スルニ當リ時々單獨敵ノ巡洋艦等ト對戦スル要アリ加之聯合艦隊ノ協同戰鬪ニ際シテモ能ク我カ輕快敏速ノ特性ヲ利用シテ機宜ニ適スル運動ヲ採リ以テ主戰艦隊ノ威力ヲ助長セサル可ラス本戰策ハ乃チ前記ノ如キ場合ニ適應スル本戰隊ノ戦法ヲ豫示スルモノナリ

一、戰鬪陣形



右ノ如ク常距離單縱陣ヲ基本陣形ト定ムト雖モ時宜ニ應シ四點以下

若クハ八點ノ一齊回頭ヲ以テ陣形ヲ變換スルコトアリ此ノ際各艦ノ最注意スヘキハ回頭ノ左右ヲ過タサルニアリ

十六點ノ一齊回頭ヲ以テ逆番號單縱陣ニ移リタルカ又ハ其ノ他ノ場合ニ於テ旗艦先頭ニ在ラサル時ト雖モ先頭艦ハ指揮權ノ高下ニ關セス常ニ後續諸艦ヲ嚮導シ戦策ニ適應スル運動ヲ執ルヲ要ス

各艦若シ離散シタル場合ニ於テ旗艦ノ通跡ヲ進メノ令アラハ各艦ハ番號ノ順序ニ關セス成ルヘク速ニ單縱陣ヲ制ルモノトス

二、戰鬪速力

原速力 十八節 半速力 現在原速力ノ二分ノ一

微速力 四節 舵角 二十五度

戰鬪速力ノ令ハ別ニ之ヲ下サ、ルモ戰鬪旗ヲ掲揚スルヤ直ニ速力信號ヲ撤シ十八節ニ増速スヘシ(八十、九十、百、百二十)順次ニ回轉數ヲ増加シテ又必要ナル時機例令ハ敵ヲ追撃スル等ノ場合ニ於テ基本陣形若クハ小隊單位ヲ保持スルノ必要ナシト認メ全速力ヲ令スルトキハ

速力ヲ漸増シテ二十節トナスヘシ笠置若シ續行シ能ハサルニ至ラハ令ナクシテ一時列外(不關旗ヲ揚ケテ)ニ出テ機宜ノ行動ヲ採ルヘシ

三、戰鬪開始

(第一)戰鬪序列航行中總指揮艦ニ於テ戰鬪旗ヲ掲クルカ或ハ(第二)單獨ニテ敵艦ヲ確認シ旗艦ニテ戰鬪旗ヲ掲クルトキハ各艦モ等シク之ニ準シテ掲揚シ(ハリヤード)若シ切斷スルコトアルモ軍艦旗ノ降下セサル爲メ旗ニ接スル上下ニ於テ櫓周ニ縛著スルヲ要ス(戰鬪速力ニ増速ス)

第一ノ場合ナレハ次ノ運動ヲ採ル

戰鬪序列ニ於ル位置戰鬪側ナル場合ニハ時ノ狀況ニ應シ右方ニ一齊回頭若クハ正面變換ヲナシテ敵ヲ挾撃スルノ威勢ヲ示ス

戰鬪序列ニ於ル位置非戰鬪側ナル場合ニハ其ノ儘直進シ先頭戰隊ノ運動ニ據リテ後事ヲ決ス

第二ノ場合ナレハ先頭艦ハ常ニ敵ノ先頭艦若クハ己ニ近キ翼艦ニ向ヒテ直進シ距離約八千ニ達シタルトキ便宜右方若クハ左方ニ正面ヲ

轉シ戰鬪ヲ開始ス

四、戰法

本戰隊ノ對敵運動ハ第一、第二戰隊ト等シク丁字戰法ヲ採リ常ニ我カ砲火ノ全力ヲ以テ敵ノ列端ニ集注シ個々ニ敵ヲ撃滅スルヲ方針ニアリ、此ノ方針ニ從ヒ陣形ヲ變換シ或ハ戰鬪距離ヲ保持セン爲メ時機一齊回頭ヲ以テ運動ス

彼我同行スル場合ニ至ラハ本戰隊ハ高速力ヲ利用シテ常ニ敵ヨリ前進ノ位置ヲ占メ敵ノ先頭ニ對シ丁字戰法ヲ採ラントス此ノ場合ニ於テ距離適當ナレハ甲種水雷ヲ利用スルヲ可トス

若シ又敵ノ艦隊劣勢ナルトキハ時宜ニヨリ小隊單位ニ分離シ聯合艦隊戰策第五項第二號ニ指示スル乙字戰法ヲ採リ敵ヲ又撃スルコトアルヘシ(標時旗一旒ヲ揚ケテ之ヲ令ス)其ノ時第二小隊嚮導艦ハ機宜ニ適スル様右方若クハ左方ニ出テ乙字ヲ畫クノ方針ヲ以テ運動スルモノトス

但此ノ運動中最注意スヘキハ各隊相互ニ連繫ヲ失ハサルニアリ

五、砲煩使用ノ守則

- (イ) 發砲開始ノ時機ハ特ニ之ヲ令セサルト雖モ六千以内ノ距離ニ入ラハ各艦長ノ所信ヲ以テ適宜ニ有効ナル砲撃ヲ開始スルモノトス但四千以上ニ於テハ急射濫發スヘガラヌ
- (ロ) 射距離ハ三〇〇〇五〇〇ヲ基準トシ三千以内ニハ近接セサルヲ例トス
- (ハ) 射撃目標ハ敵ノ先頭後尾若クハ翼端トスト雖モ對勢ノ如何ニヨリテハ之ニ拘泥スルコトナク各艦任意ニ其ノ艦ノ砲力ヲ最大ニ利用シ得ルト認ムル目標ヲ撰フヲ要ス
- (ニ) 戰鬪ノ初期ニ於テ試射ノ結果近邇ノ敵艦距離ヲ知リタル時ハ百位ヲ以テ示ス距離ヲ計數信號ニテ前橋頭ニ揚ク可シ此ノ場合ニ於テ他艦ハ受信スルニ及ハス
- (ホ) 單縱陣航行中殿艦ハ重砲發射ノ爲メ一時二點以内ノ回頭ヲ爲スコトヲ得然レトモ之カ爲メニ艦ノ距離ヲ開カサル様注意スルヲ要ス

六、水雷使用ノ守則

砲戰ヲ主トスルヲ以テ特ニ水雷發射ノ時機ヲ作ル爲メニ陣形ヲ變シ或ハ敵ニ近接スルコトナシト雖モ對戰中水雷利用ノ好機アラハ各艦任意ニ甲種水雷ヲ發射スヘシ而テ之カ爲メ各艦ハ一時二點以内ノ回頭ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ發射ヲ終ラハ速ニ原針路ニ復スルモノトス

七、各艦自由運動ヲ爲シ得ル場合

- (イ) 亂戰分離ノ後
 - (ロ) 衝突セラレントスルカ若クハ一艦ノ安危ニ關シ已ムヲ得サルトキ
- 右ノ外令ナクシテ各艦ニ自由運動ヲ許スコトナシ若シ敵艦ニ中斷セラル、場合アラハ爾後成ルヘク速ニ前續艦ニ追躡シ合同スルコトヲ努ムヘシ

八、第三戰隊特有任務ニ對スル戰法

- (イ) 均勢ノ敵艦トハ「ドミトリードンスコイ」「ボガツイリ」「ソリヤード」「バ

ルヲ「ダイヤーナ」「アウローラ」「アスコリド」ノ七艦ナラン勿論有形的戦闘力ニ於テハ彼ニ於テ稍優ル所アルヘシト雖モ我カ無形的戦闘力ヲ加味スルニ於テハ右七艦中ノ四艦ヨリ成ル一隊ト鋒ヲ交フルモ毫モ意トスルニ足ラサルナリ其ノ戦法ハ前項縷述セル所ニ外ナラス

- (ロ) 優勢ノ敵艦則チ一等戦艦及ヒ一等巡洋艦ニ對シ我カ戦隊ノ採ル可キ策ハ他隊ノ運動ヲ妨ケサル限リ縦横ニ馳驅シテ横鎗ヲ入レ以テ敵ノ頭腦ヲ紛亂セシメントスルニアリ
- (ハ) 劣勢ノ敵艦則チ「ボヤーリン」「アーウ非ク」「アルマーズ」及ヒ其ノ以下ノ小艦ニ對シテハ丁字又ハ乙字戦法ヲ以テ一撃ノ下ニ粉碎センノミ
- (ニ) 敵ノ驅逐艦若クハ水雷艇ニ對シ最注意スヘキハ常ニ敵ヲ我カ正横後ニ見ルカ如ク敏活ナル運動ヲ採ルニアリ敵若シ正首ヨリ猛進シ來リ其ノ距離約五千以上ナルトキハ便宜一方ニ正面ヲ變換シテ丁字戦法ヲ採ル若シ又其ノ距離約五千以内ニ近接セルトキハ一方ニ

四點以内ノ一齊回頭ヲ行ヒ猛撃ヲ加ヘントス
正首以外ノ方面ヨリ來襲スル場合ニハ丁字戦法ヲ採リテ彼ヲ掩撃セントス

- (ホ) 一戦後敵ニ損傷艦又ハ孤立艦ヲ生シタルトキハ適宜小隊單位又ハ單艦單位ヲ解列シ圓戰ヲ以テ之ヲ撃沈セントス此ノ際最注意スヘキハ彼ノ水雷ヲ顧慮スルニアリ

- (ヘ) 敵ノ敗走艦ヲ追撃スル場合ニハ單横陣ヲ用フルカ或ハ單縦陣ヲ以テ彼ノ側方ニ出ツルノ運動ヲ採ル若シ敵ニシテ本戦隊ノ二隻ヨリ劣勢ナル場合ニハ我ハ小隊單位ニ分離シ兩方面ヨリ敵ヲ追尾シテ挾撃セントス之ヲ令スルニハ標時旗二旒ヲ連掲ス

- (ト) 敵情偵察ノ場合ニ於テ敵ニ遭遇シ彼ニシテ劣勢ナラハ勿論之ヲ撃滅スヘシト雖モ均勢又ハ優勢ナルトキハ任務上之ヲ避クルヲ可トスルコトアリ斯ル時ハ適宜速力ヲ加減シ砲戰距離ヲ保持シツ、單横陣ニテ背進ス小隊單位單艦單位ノ場合亦右ニ準ス、

- (チ) 搜索中又ハ前哨勤務中優勢ナル敵ニ會シタル時ハ主隊ニ戦闘準備ヲナシ得ル時間ヲ與ヘシムル如ク、或ハ虚撃ヲ行ヒ或ハ偽航路ヲ採リテ退却シ主隊ニ合セントス
- (リ) 敵艦艇ハ戦闘中白旗ヲ掲クルコトアラハ白旗ハ無意味ノモノト見テ之ヲ撃滅スルノ活手段ヲ採ラントス
- 運送船ノ如キモ亦右ニ準シ之ヲ捕獲スルカ如キ繁ヲ避ケントス
- (ヌ) 我カ損傷艦目前ニアリト雖モ尙敵ノ勢力アル艦影現存スル間ハ命令ニヨル時ノ外専心敵艦ノ撃滅ヲ努メントス
- (ル) 我カ驅逐艦水雷艇カ敵ニ追窮撃惱サル、コトアラハ可成味方艦艇ト敵トノ中間ニ位置ヲ採ルノ運動ヲ以テ彼ヲ撃攘セントス

九、夜間戦闘中大櫓頭ニ掲揚スヘキ[㊦]自燈光ハ光力可成強キモノヲ用フ

ヘシ(三戰機密
第二二號)

第二艦隊司令官瓜生少將モ亦第四戰隊ノミ敵ト對戦スル場合ニ於ル戦法ヲ策定シ、戦闘陣形先頭艦ノ準據スヘキ運動ノ要領、速力、舵角、砲煩ノ使用、魚

形水雷ノ使用、希望等ニ分チ、第四戰隊戦策トシテ、一月廿八日之ヲ同戰隊ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

- 一、本戦策ハ第四戰隊カ一單位トシテ交戦ニ際シ採ル可キ戦法ノ綱領ヲ示定スルモノニシテ此ノ單位戦策ニ基キ聯合艦隊戦ニ参加ス
- 二、聯合艦隊戦参加ノ場合ニ於ル我カ戦隊ノ戦闘占位ハ遊撃隊タル任務上豫定スルコト難シト雖モ先頭戦隊ノ運動ヲ見ル迄ハ前針路ヲ直進シ然ル後ハ速力ニ大差ナキ第一戦隊ヲ基準トシテ非戦側後方ニ在リテ遠ク離レサルヲ勉メ以テ臨機敏活ノ行動ヲ採ラントス
- 三、我カ戦隊ノ戦法ハ聯合艦隊戦策ニ示サル、丁字戦法ヲ基本トシ我カ全線ノ砲力ヲ敵ノ先頭若クハ其ノ一端ニ集注スルヲカムルニ在リ而テ戦闘距離ヲ常ニ三千米突以外ニ保タントス

四、戦闘陣形

左ノ如ク常距離蛇行單縱陣ヲ基本トシ機宜ニ應シ一齊回頭ヲ以テ單横陣(追撃背進ニ主用ス)若クハ單梯陣ヲ制リ又十六點ノ一齊回頭ヲ以

テ逆番號ニ轉迴ス是等陣形ノ變化ニ伴ヒ先頭ニ立チタル艦ハ特令ナ
キ限リ嚮導ノ任ニ當リ指揮權ノ高下ニ關セス自己ノ所信ヲ以テ我カ
戰隊ヲ有利ノ位置ニ導クヘシ

第一小隊 第二小隊

- (一) 浪速
- (二) 須磨
- (三) 四明石
- (四) 高千穂

(編者曰ク瓜生司令官ハ一月三十一日右ノ配置ヲ改メテ第一小隊ノ(三)ニ明石第二
小隊ノ(四)ニ高千穂(五)ニ新高ト定ム)

戰鬪中ハ集散離合竝ニ排列ノ如何ニ關セス艦船番號ハ常ニ變スルコ
トナシ

戰鬪陣形ニ在ル各艦ハ常距離ヨリ短縮スルコトアルモ延長スルコト
ナキ様殊ニ留意スヘシ

又戰鬪中自艦少許ノ變針ニ依テ敵發射ノ水雷ヲ避クルカ如キ或ハ自
己水雷發射ノ好機ヲ得ルカ如キ必要ノ場合ニ臨ンテハ各艦長ハ其ノ
所信ヲ以テ適宜其ノ艦ヲ操縱シ得ルハ勿論ナリト雖モ陣形ノ整正ハ

戰鬪ノ第一要素ナルコトヲ銘記スヘシ

列ヲ脱シタル艦其ノ舊位ニ復スルニ困難ナル場合ニハ別ニ命ヲ待タ
ス殿艦トナリ各艦ハ令ナクシテ其ノ空位ヲ填ムルモノトス

五、前記第三項ノ戰法ニ基キ交戰ニ際シ先頭艦ノ準據スヘキ運動ノ要領

ハ概ネ左ノ如シ

- (イ) 先頭艦ハ常ニ敵ノ先頭艦若クハ己ニ近キ翼艦ヲ目懸ケテ直進シ距
離凡八千米突ニ達シタルトキハ便宜右方或ハ左方ニ針路ヲ轉ス
- (ロ) 彼我運動ノ結果反行ノ狀態トナリタル場合ニ於テハ常ニ敵ノ先頭
後尾若クハ翼端ニ丁字形ヲ畫クカ如キ運動ヲ採ル
- (ハ) 同行ノ場合ニ於テハ敵外方ニ艦首ヲ轉セントスル模様アルトキハ
己モ亦外方ニ轉ス

(ニ) 劣勢ナル敵及ヒ正向シ來ル驅逐艦等ニ對シテハ乙字戰法ヲ以テ挾
撃スルコトアリ此ノ場合ニ於テハ標時旗一旒ヲ以テ令ス此ノ信號
ノ降下ニ依リ其ノ際殿小隊ノ位置ヲ占ムル艦々ハ其ノ嚮導艦誘導

ノ下ニ敵挾撃ノ針路ニ就クモノトス

六、速力、舵角

(イ) 戦闘速力、舵角

原速力 十五節

微速力 五節

舵角 浪速ノ廿度

(ロ) 戦闘中ハ特別ノ場合竝ニ各艦長カ一時必要ト思量セル場合ノ外廻轉信號ノミヲ揚ケ速力信號ヲ掲クルコトナシ

(ハ) 普通速力ヨリ戦闘速力ニ増加ノ場合ニハ約二節ニ對スル廻轉ヲ一區切リトシテ漸加スルノ法ヲ採リ以テ陣形ノ亂ル、ヲ防クヲ例トス普通速力ニ復スルトキ亦同シ但後段ノ場合ニ於テハ先ツ速力信號ヲ全揚シ置キテ半速ノ位置ニ下シ一時ニ普通速力ニ近キ速力トナスコトアル可シ

七、砲煩ノ使用

(イ) 砲戦開始ノ時機ハ特令セス之ヲ各艦長ノ所信ニ委任ス

(ロ) 射撃ノ目標ハ戦法ノ趣旨ニ基キ勉メテ敵ノ先頭、後尾若クハ翼端ニ集彈スルニ在リト雖モ對勢ノ如何ニ依テハ之ニ拘泥セス各艦任意ニ其ノ艦ノ砲力ヲ最大ニ利用シ得ルト認ムル目標ヲ撰擇スレハ可ナリ

八、魚形水雷ノ使用

(イ) 甲種水雷裝備ノ艦ニ在リテハ發射管各一門ニ對シ一發宛ヲ裝填シ置クヲ例トス

(ロ) 朱式水雷若クハ乙種水雷裝備ノ艦ニ在リテハ各發射管ニ一發宛ヲ準備シ置クヲ例トス

(ハ) 右準備シタル水雷ヲ愈裝填スルノ時機及ヒ他ノ水雷ヲ準備裝填スル等ノ時機ハ彼我ノ狀勢ニ應シ艦長ノ意見ニ一任ス要ハ敵彈ニ基ク自己水雷爆發ノ危害ヲ最少ニシ而モ水雷利用ノ好機ヲ逸セザラントスルニアリ

九、希望

- (イ) 四千五百米突以上ノ砲戦ニ在リテハ精密ニ射撃諸元ノ修正ヲ行ヒ四千五百米突以内ニ在リテハ敵艦ノ速力等ニ對スル苗頭ノ修正ヲ省略シ敵艦ノ艦首ヲ照準セシムルヲ利アリトス
- (ロ) 驅逐艦水雷艇ニ對シ右後段ノ場合ニハ敵ノ前方半艇身角度ニ依リ現ニ見ユル所ノ艇身ニ照準ヲ導キ發射スルヲ利アリトス
- 此ノイロニ記スル照準法ハ平素ヨリ充分了解セシメ訓練シ置クヲ要ス
- (ハ) 彈藥ノ節約ハ最重要ニシテ動モスレハ濫射ニ陥リ易シ各艦長ハ命中確實ト認ムル場合ノ外急射セシメサルコトニ留意ス可シ
- (ニ) 戰鬥中艦内ノ士氣ヲ旺盛ナラシムルコトニ就テハ各艦長出來得ル丈ケノ手段ヲ盡スヲ要ス特ニ戰酬ニシテ被彈ノ慘害大ナルニ際シテハ戰勝ノ場合ト雖モ尙士氣ノ沮喪ヲ免レサルカ故ニ部下ヲ鼓舞シ敵ノ苦痛ハ我ニ倍スルト思フノ觀念ヲ持セシメ胸裡ニ必勝ノ信念ヲ發起セシム可シ忍耐カノ續クト否トハ實ニ勝敗ノ分ル、處ナリ、

以上列記ノ聯合艦隊及ヒ各戰隊ノ戰策ハ、即チ本戰役ヲ通シテ戰鬥ノ基本タリシモノニシテ、黃海、日本海ノ大海戰ヨリ其ノ他ノ小戰鬥ニ至ルマテ、凡テ之ニ依ラサルモノナシ、

第四節 聯合艦隊ノ出發及ヒ陸軍韓國臨時派遣隊ノ派遣始末

明治三十七年二月五日午後五時、佐世保軍港ニアル東郷聯合艦隊司令長官ハ、露國艦隊擊破ノ爲メ、發進命令ヲ蒙ル、是ニ於テ六日午前一時、上村第二艦隊司令長官以下各司令官、各艦長等ヲ旗艦三笠ニ召集シテ、勅語ヲ奉讀シ、發進命令ヲ示シテ後、左ノ聯合艦隊命令ヲ下シテ、徹夜軍議ヲ凝セリ、

- 一、最近情報ニ依レハ去三日旅順ヲ出テタル敵艦隊ノ主力ハ大連灣ニ一泊シタルノ後、再旅順ニ歸リ港外ニ碇泊シ其ノ内戰艦三隻本日午後何レヘカ出港セリ(編者曰ク戰艦三隻出港ノコトハ五日在芝罘森海軍中佐ヨリ海軍省及ヒ軍令部ヘ電報セシ所ニ基ケルモ其ノ後該電報ハ誤報ナル旨申來レ)
- 又浦鹽及ヒ仁川方面ニアル敵ノ一部ハ未タ動カサルモノ、如シ

二、聯合艦隊ハ上命ニ基キ明六日當港ヲ發シ可成行動ヲ隱蔽シテ急速黃海ニ進出シ旅順及ヒ仁川方面ノ敵ヲ擊破スルト同時ニ韓國京城占領ノ目的ヲ有スル陸軍兵ヲ仁川若クハ牙山附近ヨリ揚陸セシメントス

三、各部隊ハ別紙聯合艦隊行動豫定表及ヒ豫定航路圖ニ準シテ行動スヘシ

四、旅順方面ノ敵ニ對シテハ第一及ヒ第二戰隊淺間ヲ欠ク第三戰隊及ヒ各驅逐隊ヲ以テ之ヲ擔任シ仁川ノ敵ニ對シテハ第四戰隊臨時淺間ヲ附屬ス及ヒ第九及ヒ第十四艇隊ヲ以テ之ニ當ラシメ且陸軍運送船ノ護衛ニ任セシム

五、來八日午後五時圓島ノ約南東ニ東二十五哩ノ地點ニテ各驅逐隊ハ本隊ニ分レ第一第二第三驅逐隊ハ旅順口ニ第四第五驅逐隊ハ大連灣ニ進ミ索敵襲撃スヘシ

旅順大連兩地襲撃ノ時期ハ略同時ナルヲ要ス又各方面ニ於ル各驅逐隊ノ協同動作ニ就テハ豫メ協議シ置クヘシ

六、仁川方面ニ於ル作戰ノ計畫實施ニ就テハ凡テ瓜生司令官ニ一任ス

七、此ノ行動中集合地點ヲ左ノ通り定ム

第一集合地點 珍島南部接島ノ西方

第二集合地點 仁川港外ベーカー島ノ西方

第三集合地點 牙山灣

第四集合地點 巡威島外荒串池ノ東方

第五集合地點 小青島ノ南方約十哩

第六集合地點 大連灣外圓島ノ南東約十哩

八、此ノ行動中天候其ノ他ノ異變ニ應スル會合點ヲ左ノ如ク定ム

七日 第一集合地點

八日 第四集合地點

九日以後 第三集合地點

九、此ノ行動中八口浦附近ニ於テ濃霧ニ遭フトキハ第三戰隊水雷母艦、驅逐隊及ヒ水雷艇隊ハ便宜ノ地ニ碇泊驅逐艦、水雷艇ハ炭水ヲ補充シ可

成豫定行動ヲ續行スヘシ
 又他ノ諸戰隊ハ黑山島ノ西方ヲ通過シテ第五集合地點ニ進行スヘシ
 十、此ノ行動中天候ノ支障ニ遭フトキハ臨機日程ヲ順延ス其ノ場合ニハ
 第一若クハ第四集合地點ニテ之ヲ命令ス
 十一、此ノ行動中分離セル諸艦艇等相近接スルトキハ可成遠方ヨリ聯隊
 法令第一七號ノ味方識別信號ヲ用フヘシ
 十二、此ノ行動ヲ了レハ各部隊ハ一度牙山灣ニ集中シ後命ヲ待ツヘシ
 (聯隊機密第一二〇號)

聯合艦隊行動豫定表

部隊	日程	六日	七日	八日
第三戰隊			早朝第一集合地點ニ着艦隊ハ炭水補充、午後四時迄ニシテシテ第一戰隊ニ合同シ得ル如ク出發	午前八時第五集合地點ニ達シ、更に前進之ヨリ速力十二節
第二戰隊		午前九時發第一集合地點ニ向フ、速力十節		午後七時四島附近ヨリ旅順ノ襲撃ニ向フ
第一戰隊		午前十一時發第五集合地點ニ向フ、速力十節	正午迄ニシテシテ水道ニ達ス	午前八時第五集合地點ニ達シ、更に前進之ヨリ速力十二節
第四戰隊			午後一時迄ニシテシテ水道ニ達ス	右同
第五戰隊				但午後七時ヨリ大連灣ノ襲撃ニ向フ

部隊	日程	六日	七日	八日
第十四戰隊				午前八時ベーカー島附近ニ達シ、千代田ニ會合仁川ノ情報ヲ得タル後適宜ノ行動ヲ取ル
第四戰隊		午後二時發第二集合地點ニ向フ、速力十節	午後三時迄ニシテシテ水道ニ達ス	
第一戰隊		正午發第五集合地點ニ向フ、速力十節	午後一時迄ニシテシテ水道ニ達ス	右同
第二戰隊			正午迄ニシテシテ水道ニ達ス	午前八時第五集合地點ニ達シ、更に前進之ヨリ速力十二節
赤城島		佐世保泊	午前便宜出發、朝鮮西岸ヲ潛航シテ八口浦ニ向フ	
第一戰隊			午後八口浦ニ入泊待命	

備考
 一、明石ハ五日午後八口浦ニ向ケ先發、海底電線ノ接続ヲナシ、艦隊出發後ノ情報ヲ得テ、七日正午シテシテ水道ニテ第一戰隊ニ會合通信シタル後、第四戰隊ニ合ス
 (編者曰ク尙本命令ニハ豫定航路圖ヲ附シアリ別冊附圖ニ掲ク)

六日愈、出發スル事トナリ、午前九時第三戰隊、各驅逐隊、第九、第十四艇隊、春日丸、日光丸、金州丸先ツ出港シテ、第一集合地點タル珍島南部接島ノ西方ニ向ヒ、同十一時第二戰隊出港シテ、第五集合地點タル小青島ノ南方約十海里ニ

向ヒ、正午第一戰隊出港シテ、同地點ニ向ヒ、午後二時第四戰隊及ヒ淺間出港シテ、第二集合地點タル仁川港外ベーカー島ノ西方ニ向フ、發スルニ先立ち、同日午前八時東郷司令長官ハ、電報二通ヲ伊東軍令部長ニ發セリ、其ノ一ハ豫テ同部長ヨリ諮詢アリシ、韓國警備艦千代田ノ進退ニ關スルモノニシテ、左ノ如シ、

聯合艦隊ハ本日當港ヲ發ス、千代田ハ八日午前八時外ベーカー島ノ南方ニ於テ、瓜生司令官ノ率非ル第四戰隊ニ合スル如ク、仁川ヲ出發セシメラレタシ、八日午前八時戰隊其ノ他ハ小青島ノ南方ニアリ、他ノ一ハ艦隊ノ豫定行動ニシテ、左ノ如シ、

聯合艦隊ハ本日順次ニ當地ヲ發シ、八日午前八時大青島附近ニ達シ、直ニ旅順ニ向ヒ前進、其ノ夜第一驅逐隊、第二驅逐隊、第三驅逐隊ヲシテ旅順港外、第四驅逐隊、第五驅逐隊ヲシテ大連灣内ヲ索敵襲撃セシメ、第一戰隊、第二戰隊、第三戰隊ハ迂路ヲ取り、九日朝旅順港前ニ現レ、威力偵察ヲ試ミ、十日牙山灣ニ入ル、又第四戰隊ニ淺間、第九艇隊、第十四艇隊ヲ屬シ、仁川ノ敵

ニ當ラシメ、同時ニ臨時韓國派遣隊ノ上陸ヲ掩護セシム、八口浦ニハ大島赤城、第一艇隊、第二十艇隊、臺南丸、臺中丸等ヲ留メ、根據地ノ施設ヲ爲サシム、

驅逐隊襲撃ヲ終レハ、牙山ヘ集合セシム、而テ陸軍韓國臨時派遣隊ヲ載セタル運送船大連丸、小樽丸、平壤丸モ、亦第四戰隊ニ伴ヒテ出發セリ、其ノ此ニ至レル頗未左ノ如シ、初メ陸海兩軍協議ノ結果、若シ露國トノ交渉不調ニ歸シ、艦隊愈出發ト決定スレハ、其ノ命令ノ下ルヘキ二十四時間以前ニ之ヲ海軍ヨリ陸軍ニ通知シ、韓國臨時派遣隊ノ出發準備ニ著手スルコト、ニ決シ、參謀本部ハ一月初旬豫メ同派遣隊司令官ニ與フヘキ左ノ訓令案甲乙二號ヲ起草シ、之ヲ封緘ノ儘第十二師團長陸軍中將井上光ニ交附シ、(派遣隊ノ組織等ニ就テハ、豫メ内意ヲ同師團長ニ傳ヘタリト云フ)尙我カ軍令部ニモ内報シ來レリ、

(甲號)

一、貴官ハ韓國臨時派遣隊ヲ指揮シ、佐世保東方杉尾川ノ河口東浦附近ニ

於テ乗船シ我カ聯合艦隊ノ掩蔽ニ依リ韓國仁川港ニ廻航直ニ該地ニ上陸スヘシ

二、乗船ニ關シテハ佐世保鎮守府司令長官ト協議シ運送船ト艦隊トノ關係ニ就テハ聯合艦隊司令長官ノ指示ニ應シテ行動スヘシ

三、仁川上陸後ハ速ニ京城ニ進入シ該地ノ占領ヲ確實ニ保持スルコトヲ努ムヘシ

四、貴官ノ軍事的行動ニシテ外交上ニ關係スルモノハ在京城我カ全權公使ト協議スルヲ要ス

五、韓國駐節隊ハ臨時派遣隊上陸後ヨリ第十二師團京城到着迄一時貴官ノ指揮ニ屬セシム

六、聯合艦隊ノ行動仁川港上陸ノ安全ヲ期スル能ハサル場合ニ遭遇セハ乙號訓令ヲ開緘ス可シ

七、上陸完了セハ運送船携行揚陸材料竝ニ附屬人員及ヒ臺灣陸軍補給本廠ヨリ差遣ノ將校ハ速ニ宇品ニ向ケ歸航セシム可シ

八、貴官ハ爾今參謀總長ノ區處ヲ受ク可シ

本訓令ハ師團長計畫實施ノ電報ヲ受領シタル後自ラ開緘シテ臨時派遣隊司令官ニ交附セシム

但師團長ヘハ別ニ甲乙兩號訓令ノ寫ヲ送附ス

(乙號)

一、貴官ハ韓國仁川港上陸ノ企圖ヲ放棄セラルヲ得サルトキハ牙山水營即チ蛇洞灣淺水海灣ノ入口東側海圖第一六號若クハ庇仁灣即チ馬梁洞蛇洞灣ノ南方ニシテ海圖第十六號ニ在リニ上陸シ陸路京城ニ行進ス可シ其ノ行軍計畫ハ大概ネ略圖ニ示スカ如シ

二、貴官ノ任務ハ甲號訓令ノ通り

三、行軍途中ノ給養ハ成ルヘク地方物資ニ依ルコトヲ勉ムヘシ

四、情況上到底第一項ノ上陸ヲ企圖スル能ハサル時ハ韓國南岸露梁津鎮海灣ノ西方ニ廻航上陸シテ命ヲ待ツヘシ

五、上陸後運送船携行揚陸材料竝ニ附屬人員及ヒ臺灣陸軍補給廠ヨリ差

遣セシ將校ハ速ニ宇品ニ向ヒテ歸航セシムヘシ

本訓令ハ甲號訓令ト共ニ封緘ノ儘師團長ヨリ司令官ニ交附セシム
尋テ一月七日更ニ左ノ如ク第十二師團長ニ通知セラレタル旨陸軍當局者
ヨリ海軍當局者ニ内報シ來レリ、

韓國臨時派遣隊ヲ武裝ノ儘差遣セララル、場合ニハ先般及御通知候外左
ノ件々御承知相成度此段及御通知候也

一、師團長ハ部下旅團長一名ヲ臨時派遣隊司令官ニ任命シ其ノ豫定人
名ヲ陸軍大臣及ヒ參謀總長ニ報告スルコト

二、運送船ハ郵船會社所有ノ小樽丸、大連丸ノ二艘ニシテ其ノ乗船ハ佐
世保東方杉尾川ノ河口東浦附近ニ於テス故ニ人馬ハ早岐停車場ニ
テ下車シ乗船地ニ陸行スルコト

三、運送船ハ來一月八日ヨリ吳軍港内ニ於テ艤裝ヲ始メ同十三日佐世
保ニ廻航スル筈ナルコト

四、運送船ノ監督及ヒ船隊ト通信ノ爲メ各運送船ニ海軍將校一名信號

兵二名乗組ム筈ニシテ此ノ監督將校ハ佐世保ニ於テ鎮守府司令長
官ノ任命ヲ受ケ且爲シ得ル限り船舶輸送勤務令ノ規定ニ從ヒテ服
務ス可キ様命令セラレヘキコト

五、臨時派遣隊司令官ノ令下ニ屬シテ專ラ乗船上陸ノ業務ヲ擔任セシ
ムル爲メ臺灣陸軍補給本廠ヨリ將校一名ヲ運送船ニ乗組マシム此
ノ將校ハ運送船ト共ニ佐世保ニ先行セシムルコト

六、乗船ニ關シテハ臨時派遣隊司令官、佐世保鎮守府司令長官ト協議シ
運送船ト艦隊トノ關係ニ就テハ聯合艦隊司令長官ノ指揮ヲ受クル
コト

七、各運送船ニハ舩舟(人四十乘)五隻之ニ要スル舩夫及ヒ棧橋材料五十
米突分ヲ備附ケアリ又各船ニハ馬欄十個宛ノ準備アルヲ以テ乘馬
本分ノ將校ハ馬匹ヲ携行スヘキコト

八、將校以下ニハ携帶行糧八日分天幕及ヒ毛布一枚宛ヲ携行セシムル
コト

九、武装シタル臨時派遣隊ニ關スル隱語ハ(コロク)ト約束スルコト

十、臨時派遣隊ニ附屬セシムル韓語ノ通譯官五名ハ來一月十三日迄ニ

佐世保ニ差遣シ運送船ニ乗組マシムルコト

十一、船中人馬ノ給養ハ總テ運送船内ニ準備シアルコト

而テ山本海軍大臣ハ陸軍大臣ノ照會ニ依リ、郵船會社所有汽船小樽丸、大連丸ヲ海軍省用船ノ名義ノ下ニ雇入レ、吳軍港ニ於テ艤裝ニ著手シ、其ノ監督將校トシテ、海軍中尉森脇榮枝ヲ小樽丸ニ、同兼坂隆ヲ大連丸ニ乗組マシメ、以上ノ顛末ヲ記シテ聯合艦隊及ヒ佐世保鎮守府司令長官ニ送附シ、尙佐世保鎮守府司令長官ニハ、之ニ關シ聯合艦隊司令長官、臨時派遣隊司令官ト協議スヘキコトヲ、聯合艦隊司令長官ニハ、運送船トノ關係ニ就テハ、適當ト信スル判斷ニ基キ、臨機ノ指示ヲ爲スヘキコトヲ命シ、又兩司令長官ニハ、事ニ臨ミテ毫モ遺憾ナキ様、取計ハンコトヲ訓示セリ、既ニシテ同月十二日ニ至リ、陸軍大臣ヨリ海軍大臣ニ對シ、又左ノ照會アリ、

今般當省ニ於テ借上候大坂商船會社汽船平壤丸ハ左記ノ目的ニテ至急

佐世保ニ回航ノ上同地滞在ノ艦隊司令長官及ヒ鎮守府司令長官へ可届出旨内訓致置候間可然取計相成度此段及照會候也、

一、小樽及ヒ大連丸乗船者ノ上陸景況ヲ速ニ報告スルコト

二、小樽及ヒ大連丸乗船者ノ上陸ヲ補助スルコト

三、要スル場合ニ於テハ小樽及ヒ大連丸ノ輸送力ヲ補助スルコト

追テ同所滞在ノ艦隊司令長官ノ指揮ヲ受クヘキ様併セテ内訓致置候間申添候也

又東郷聯合艦隊司令長官ハ、熟慮ノ結果、臨時派遣隊ノ上陸地ハ牙山附近トナスヲ最得策ト認メ、同三十一日其ノ意見ヲ伊東軍令部長ニ提出セルヲ以テ、伊集院軍令部次長ハ更ニ之ニ關シ、參謀本部次長ト協議セシニ、其ノ希望タルヤ、若シ派遣隊牙山ニ上陸スレハ、京城ニ至ル迄ノ行軍ニ四日ヲ費シ、之ニ佐世保港ヨリノ航海日數ヲ加フル時ハ、實ニ一週間ノ時日ヲ要スルヲ以テ、其ノ間京城ノ情況ニ、如何ナル變遷ヲ來スヤモ測ラレスシテ、爲メニ機宜ヲ失スルノ恐アリ、且同隊ハ運搬機能ヲ有セサルカ故ニ、良シ多少ノ危険ヲ